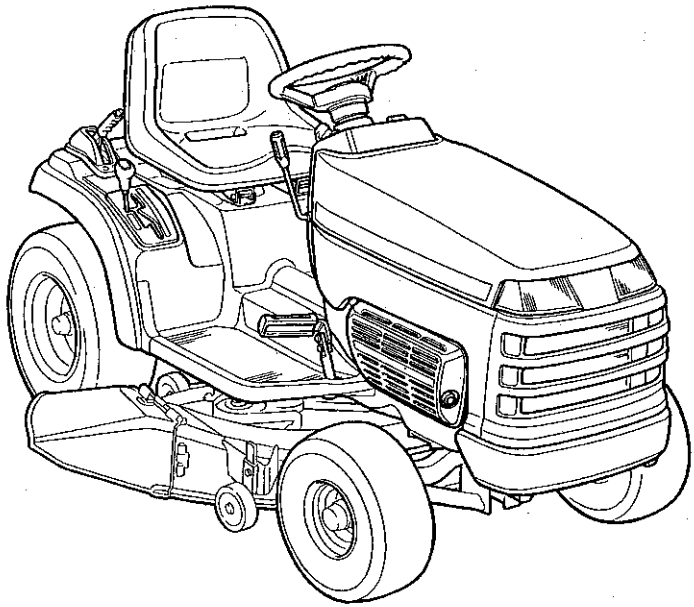
お買いあげありがとう
ございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

はじめに

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
この取扱説明書は、下記機種の取り扱いをまとめたものです。
Honda乗用型芝刈機：H4514H
安全、快適にお使いいただくために正しい取り扱いをしなければなりません。
安全に取扱いをしていただくために取扱説明書で(注意)マークのついた項目がその都度記載されております。 必ずお守りください。



なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう……4
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう……8
エンジン　スイッチ……10
エンジン回転調整レバー……10
刈取り高さ調整レバー……11
刈取りクラッチ　レバー……11
変速レバー……12
ブレーキ　ペダル……13
前照灯スイッチ……13
駐車ブレーキ　レバー……14
トランス　ミッション　リリース　レバー……15
運転をする前に点検しましょう……16
ラジエータ　スクリーンの点検……16
エンジン　オイルの点検……17
ガソリンの点検……18
ラジエータ(冷却水)の点検……19
空気清浄器(エア　クリーナ)の点検……20
ブレーキ　ライニングの点検……20
刈刃ベルト及び駆動ベルトの点検……21
バッテリ液の点検……22
変速機オイルの点検……23
シートの位置調整……23
刈刃状態の点検……24
アンチ　スカルプ　ローラ調整……25
刈取りクラッチ　レバー、変速レバー　スイッチの点検……26
タイヤ空気圧の点検……27

運転のしかた ……28
エンジンのかけかた ……28
シート　スイッチの点検 ……31
駐車ブレーキ　システムの点検 ……31
刈取り作業 ……32
エンジンのとめかた ……38
運搬のしかた ……39
定期手入れを行いましょう ……40
定期点検 ……41
やさしい点検・整備 ……42
エンジン　オイルの交換 ……42
空気清浄器(エア　クリーナ)の清掃 ……43
点火プラグの清掃、調整 ……44
バッテリ液の補充、端子の手入れ ……45
車輪の取外し ……46
刈刃カバーの外しかた ……47
刈刃駆動ベルトの交換 ……49
刈刃ベルトの交換 ……51
刈刃の交換 ……53
ヒューズの交換 ……56
燃料ろ過器の点検 ……57
前照灯の電球交換 ……57
保管のしかた ……58
故障のときは ……60
主要諸元 ……61
配線図 ……62

安全にお使いいただくために

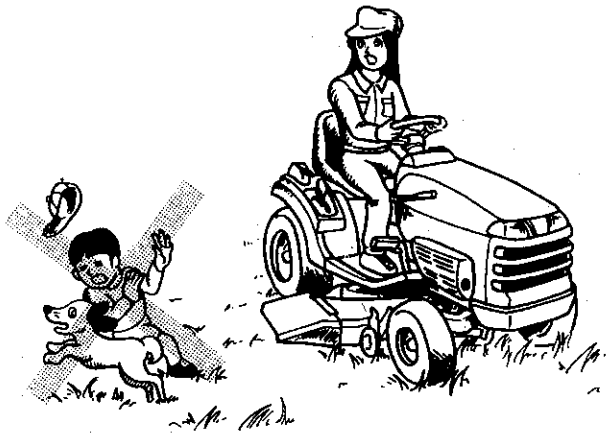
乗用芝刈機の取り扱いは正しく行いましょう。ちょっとした油断がもとで思わぬ事故を招くことがあります。安全で能率的な芝刈作業のために、次のことを必ずお守りください。

●安全運転のために

☆日常点検、整備を忘れずに。

☆子供には芝刈機を絶対に運転させたり、乗せたりしないでください。

☆芝刈りの使用現場付近には人を近づけないでください。特に子供やペットには十分注意してください。



☆衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないよう、服装には十分注意してください。

☆芝刈機を操作する前に必ず取扱説明書を読み理解した上で作業を行ってください。

これだけはぜひ守りましょう

☆屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気の悪い場所は有害な一酸化炭素がたまって中毒の危険があります。

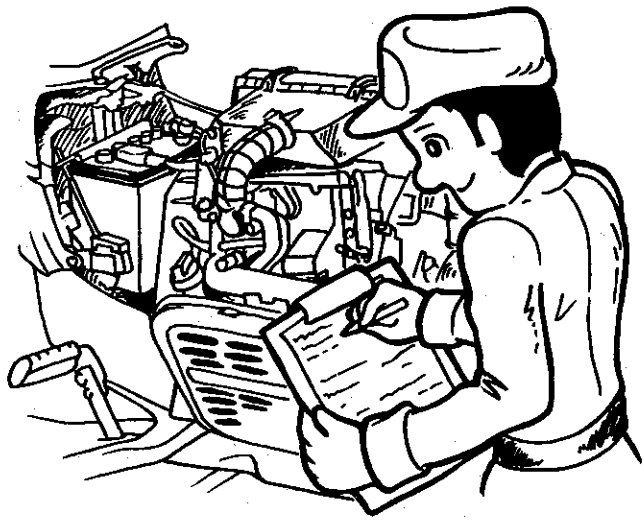
☆この芝刈機は乗車定員１名です。また道路及び一般交通に供するような場所(農道、林道、公共広場等)では走行できません。車両ナンバーを取得することはできません。

☆疲れていたり、病気の場合または飲酒時には、芝刈機を操作しないでください。

●作業を始める前に

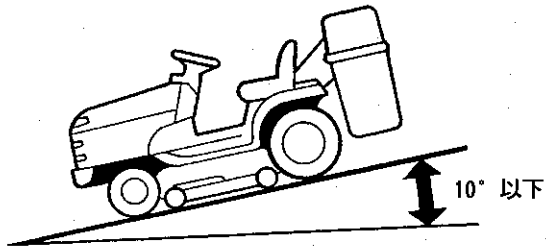
☆Hondaが推奨する点検は必ず行ってください。

☆清掃したり点検、整備などをする時は、万一の始動を防ぐためエンジン　スイッチ　キーを外し点火プラグ　キャップを点火プラグより外してください。



☆刈取りを行う場所の地形(穴・溝・がけ)をよく確認し、障害物(石、棒、針金等)を取り除いてください。石、木片などが飛ぶ危険があります。

☆傾斜10° 以下の斜面でご使用ください。

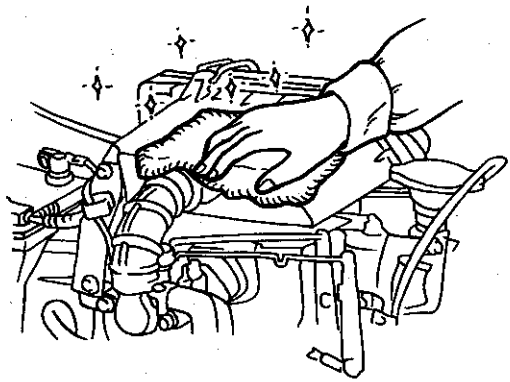


☆斜面で芝刈りを行う時は、スピードを落して必ず斜面を上下方向で刈ってください。斜面では方向転換したり、横方向では刈らないでください。

☆収納袋(別売部品)は時々点検し、すり切れや小穴のあいているもの、また縫目が破れているものは新品と交換してください。

☆芝刈り作業終了後には必らず、収納袋を空にしてください。湿った芝または腐った芝は、熱を発生させ、火災の原因になることがあります。

☆つねに、エンジン部分、刈刃カバー表面、ベルト付近はきれいにしてください。(枯葉、刈り取った芝、オイル、他燃えやすい物は、火災の原因になるおそれがあります。)



☆燃料キャップは完全に締付けてください。

☆ガソリン補給時は必ずエンジンを停止してください。〈火気厳禁〉

- ガソリンはこぼさない、もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。

☆芝刈作業は日中か十分な照明の下で行ってください。

☆移動する時は必ず刈刃を止めてください。刈高さをいちばん高い位置にしてください。

☆芝刈機に草、木の葉等を堆積させないでください。これら可燃物が堆積すると火災の原因になったり、芝刈機を破損する場合があります。

☆保護カバー類はいつも取付けて使用してください。

☆芝刈機から離れる際には必ずエンジンを止め、エンジン　スイッチ　キーを外してください。

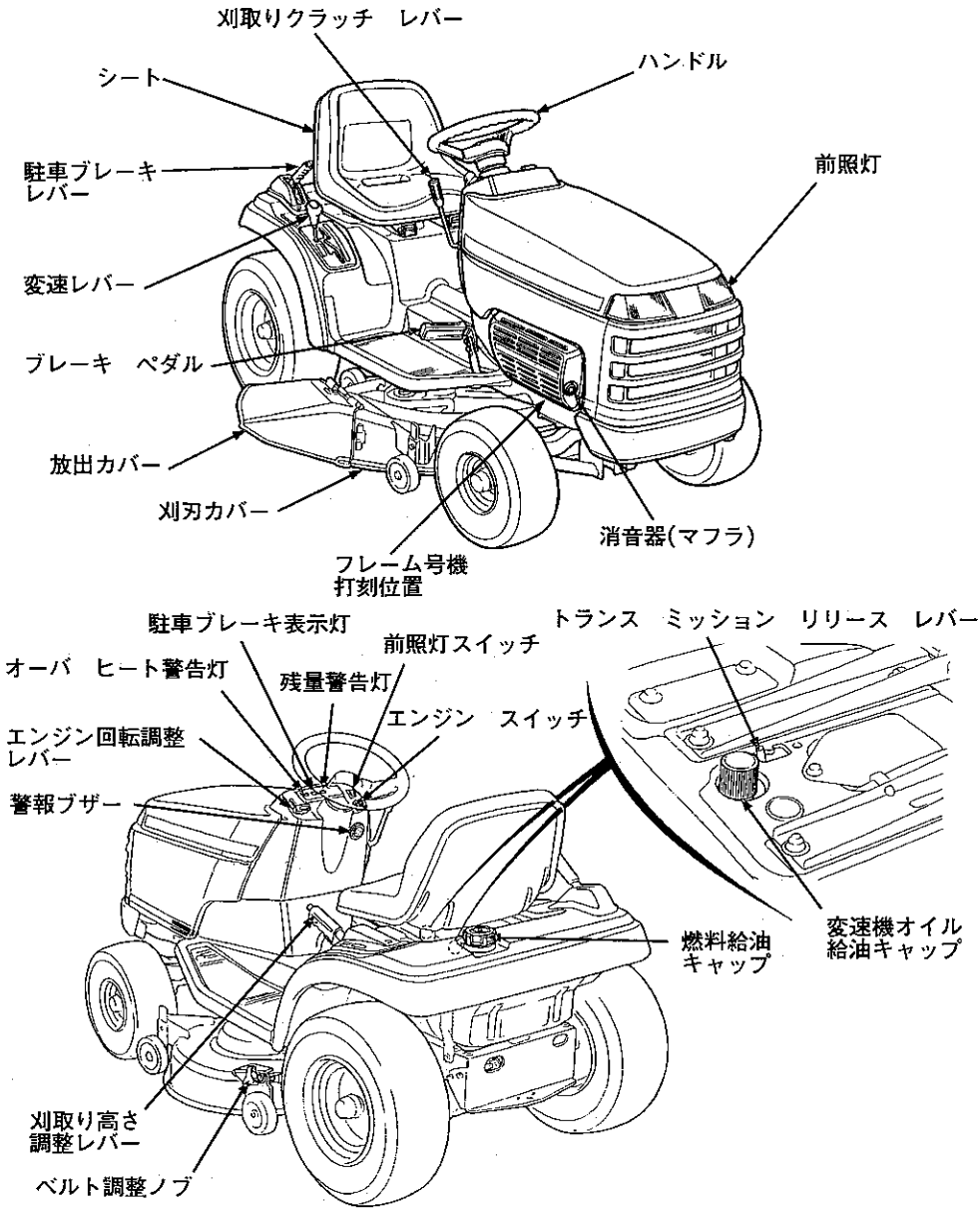
☆収納パイプ、収納袋を取外す時は、必ずエンジンを停止してください。

☆後進で芝を刈らないでください。芝刈幾を破損することがあります。また後進するときは刈高さをいちばん高い位置にしてください。

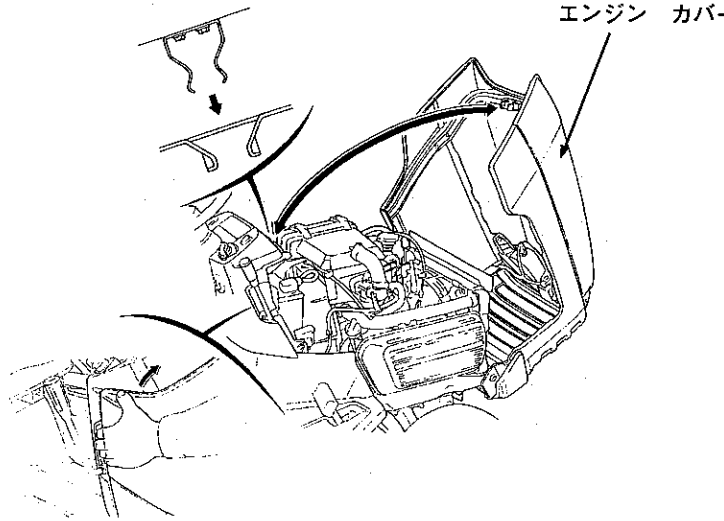
☆格納する場合は、エンジン、排気系が完全に冷えてから、燃えやすいものが近くにないところに格納してください。

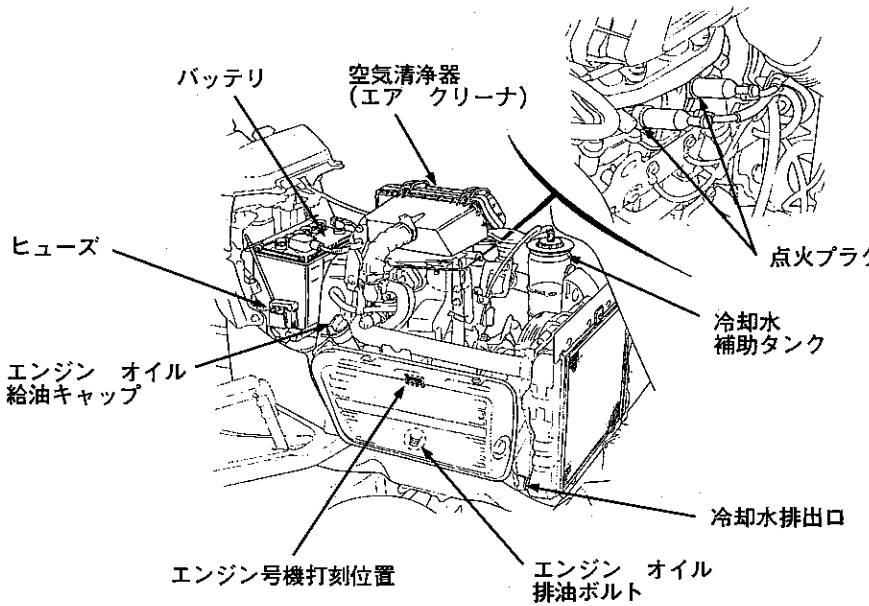
☆格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう



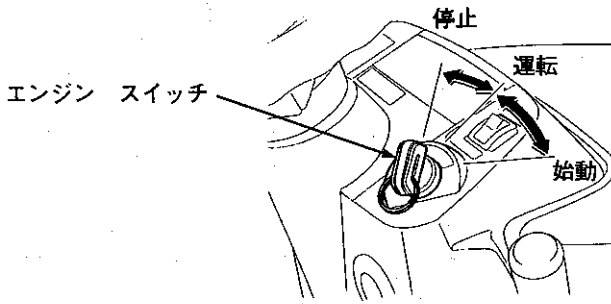
エンジン　ルーム


エンジン　カバー


バッテリ
空気清浄器
(エア　クリーナ)
ヒューズ
エンジン　オイル
給油キャップ
点火プラグ
冷却水
補助タンク
冷却水排出口
エンジン号機打刻位置
エンジン　オイル
排油ボルト

エンジン　スイッチ

エンジンを始動、運転、停止するために操作します。



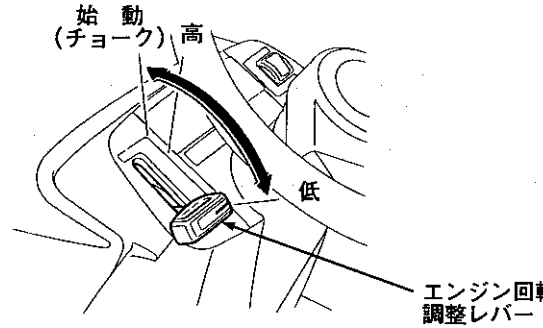
● 変速レバーが“**中立**”の位置で、刈取りクラッチ　レバーが“**切**”の位置で駐車ブレーキが“**駐車**”の位置か、または作業者がシートに座っていないとエンジンは始動しません。

> **注意**
>
> • **子供や、作業者以外の人がエンジンをかけないようにするため、芝刈機を離れる場合は必ずエンジン　スイッチのキーを外してください。**

エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。“**低**”から“**高**”までのエンジン回転を操作します。
エンジン始動時は“**始動(チョーク)**”の位置にしてください。

● エンジンが暖まっている場合、又は気温が高い時にはエンジンがかかりしだいエンジン回転調整レバーを“**低**”の位置にしてください。

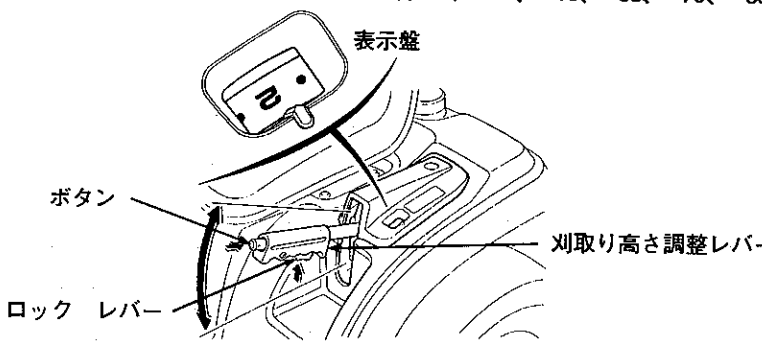


刈取り高さ調整レバー

刈取り高さを調整するものです。

ロック　レバーを握り、レバー先端のボタンを押し、レバーを上下して表示盤の数字で好みの高さに合わせて、ボタンを離すと調整できます。

刈高さは次の７段階です。　表示盤 3/4 ・ 2 ・ 3 ・ 4
(刈高さ約 19、 32、 45、 58、 70、 83、 96 mm)



注意

- 刈取り高さ調整後、ボタン、ロック　レバーを操作せず調整レバーを上下させ確実にセットされている事を確認してください。
- レバー先端のボタンは、絶対に回わさないでください。回わすと調整レバーの機構が作動しません。

● 芝刈り区域に乗り入れる時、出る時には刈取り高さ調整レバーをいっぱいに引いて刈刃カバーをいちばん高い位置にしてください。又、後進時も刈刃カバーをいちばん高い位置にしてください。

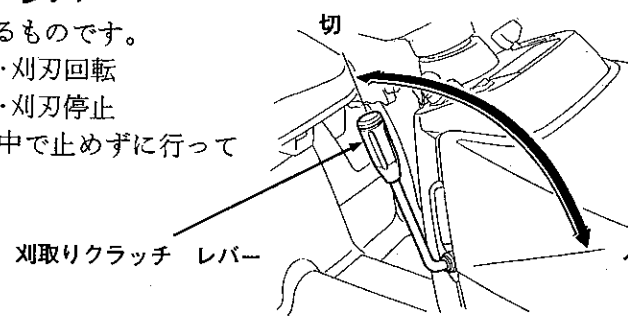
刈取りクラッチ　レバー

刈刃を駆動、停止させるものです。

レバー位置 **"入"**……刈刃回転

"切"……刈刃停止

"入"、**"切"**の操作は途中で止めずに行ってください。



変速レバー

芝刈機を前進、後進するために使用します。

このレバーで芝刈機の前進、後進の速度を無段階に変える事ができます。

前進するときは、"N"(中立)の位置から前方へ徐々に移動します。

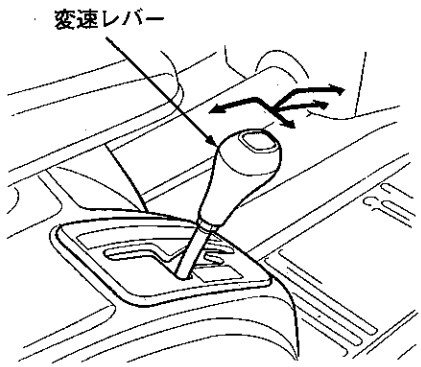
後進するときは、"N"(中立)の位置から後方へ徐々に移動します。

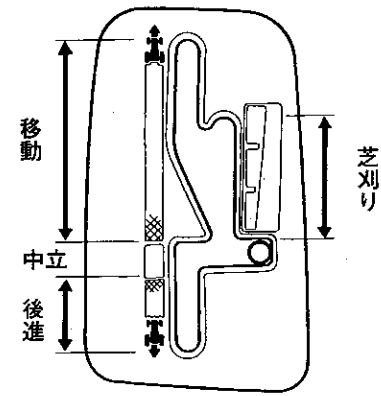
注意

- **このレバーは、ブレーキ　ペダルと連動しておりブレーキ　ペダルを強く踏込む事により、変速レバーが"N"(中立)に戻り本機は停止します。ブレーキ　ペダルを踏む時は変速レバーから手を放してください。**

芝刈作業は、変速レバーの横のラベルの**"芝刈り"**の範囲でご使用ください。

その他は、移動用としてご使用ください。





注意

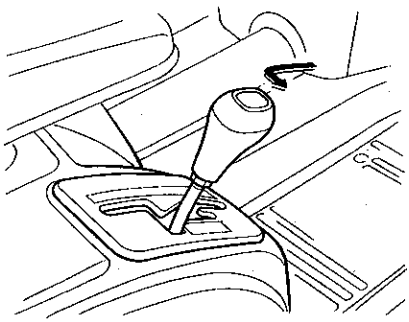
- **芝刈機が完全に停止してから、前進から後進、または後進から前進への切り換えを行ってください。走行中に切り換えを行うと動力伝達機構が破損します。**

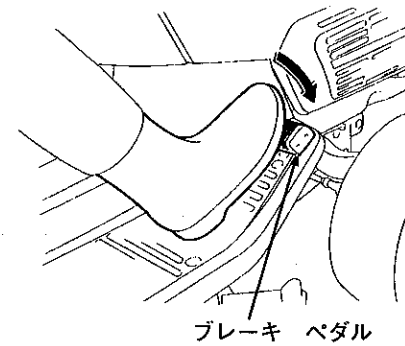
ブレーキ　ペダル

ブレーキ　ペダルには、変速レバーと連動する機構が付いています。
ペダルを強く踏み込むと、変速レバーが“N”(中立)に戻り同時にブレーキが効きます。ペダルを軽く踏むと、変速レバーは“N”(中立)方向に戻りますがその位置で走り続けます。

注意

- **この状態のままペダルから足を離さないと、ブレーキが効いたままで焼き付く原因になりますのでペダルから足を離すか、“N”(中立)にしてください。**

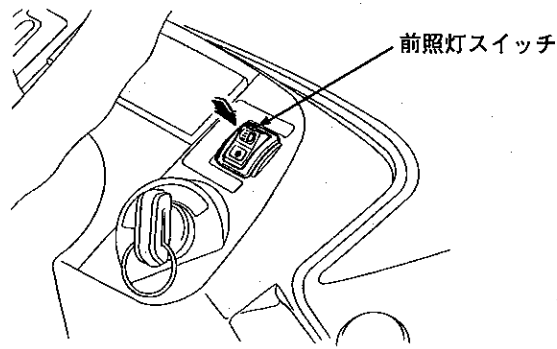




前照灯スイッチ

前照灯の点灯、消灯に使います。

- 前照灯を使用する場合は、必ずエンジンをかけて使用してください。



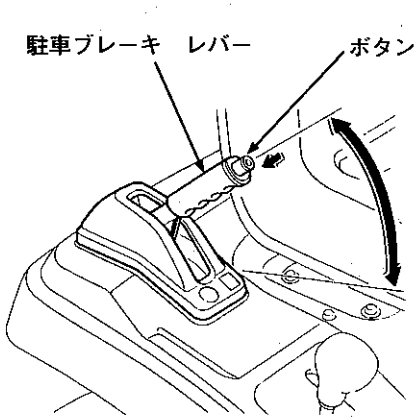
駐車ブレーキ　レバー

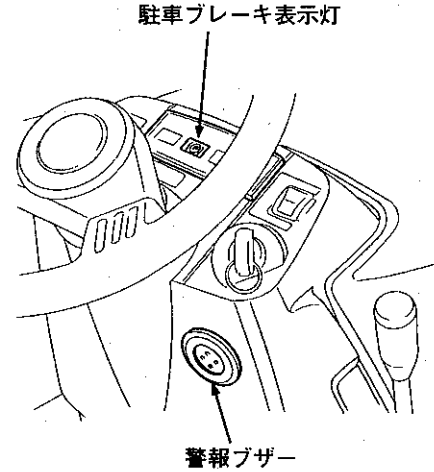
芝刈機を駐車する時に使用します。

レバーをいっぱいに引き上げると固定され、駐車ブレーキ表示灯が点灯します。

解除する時は、レバーを軽く引きながらレバー先端のボタンを押し、レバーを下方に止まるまで下げます。

- 警報ブザーは走行中の駐車ブレーキの戻し忘れとオーバヒート警告のために付いています。(30頁参照)
- 駐車ブレーキ　レバーを引いたまま変速レバーを"N"(中立)以外の位置にすると、ピーと言う連続音で警報し、数秒後にエンジンが停止します。





- 芝刈機は平坦な場所に駐車してください。
- 駐車ブレーキをかける時には必ず変速レバーを"N"の位置にしてください。

注意

- **駐車ブレーキを引いたまま芝刈機を運転すると、ブレーキ系統が故障する原因になります。**

トランス　ミッション　リリース　レバー

通常使用する時は、**"接続"**(後側)にしておきます。

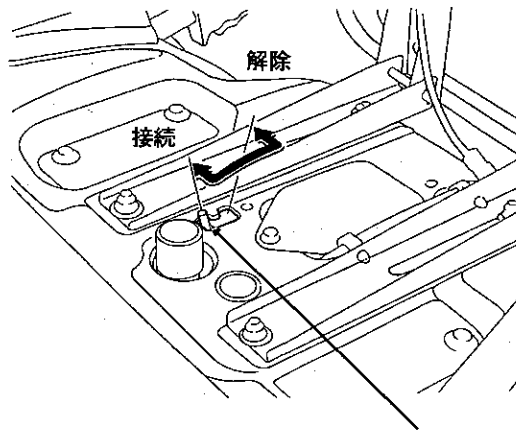
芝刈機を手で押して移動する必要がある時には、**"解除"**(前側)にします。

レバーを切換える時は

1. エンジンを止め、駐車ブレーキをかけます。
2. 変速レバーを"N"(中立)にします。
3. レバーを**"接続"**(後側)または**"解除"**(前側)に動かし溝に確実にセットします。
4. **"解除"**(前側)にした時(手で押す時)は、駐車ブレーキを解除します。

注意

- **レバーの切換えは、平坦な場所で行ってください。斜面でトランス　ミッション　リリース　レバーを操作すると動きだす事があり危険です。**
- **芝刈機では絶対にけん引作業を行わないでください。また他の車両で芝刈機をけん引しないでください。変速機に損傷をあたえる危険があります。**



トランス　ミッション　リリース　レバー

運転をする前に点検しましょう

注意

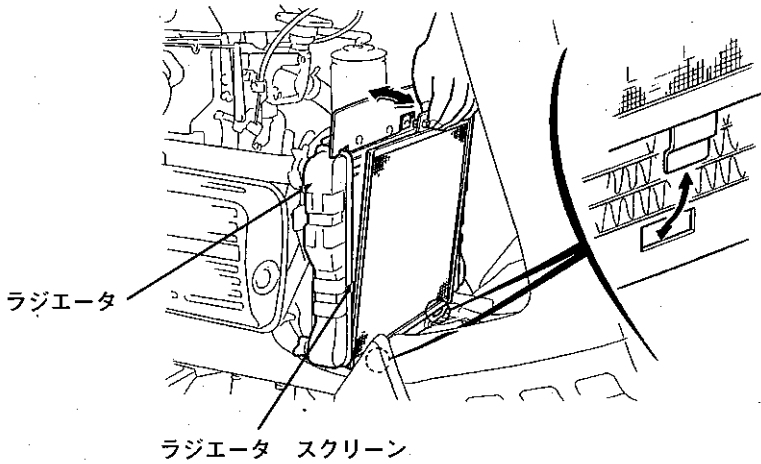
- エンジンが偶然かかることのないように、エンジン　スイッチのキーを外し、点火プラグのキャップを外してください。
- 点検は平坦な場所で芝刈機を水平にして行ってください。

ラジエータ　スクリーンの点検

ラジエータ　スクリーンの上側中央部を手前に引き、上に持上げて外してからスクリーンとラジエータ前部の汚れ、ゴミを取除いてください。取付けは、ラジエータスクリーン下側両サイドをセットしてから上側中央部をロックするまで確実に押します。

注意

- エンジン停止直後は、温度が高いので、この点検はエンジンが冷えてから行ってください。

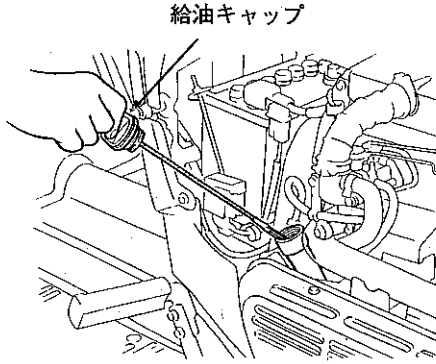


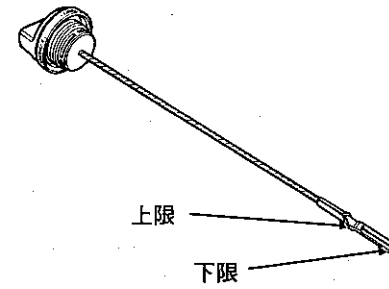
エンジン　オイルの点検

点　検

芝刈機を平坦な場所に止めます。

オイル給油キャップ付近のほこりや芝くずを取り除きオイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。





補　給

キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。

推奨オイル：Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は42頁参照)

注意

- **寒冷時では、Honda純正汎用寒冷地オイルSE5W—30またはAPI分類SE、SF級相当のSAE5W—30のオイルをご使用ください。**
- **キャップは手で確実に締付けてください。**
- **締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。**

ガソリンの点検

注意
- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- ガソリンはこぼさないでください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。

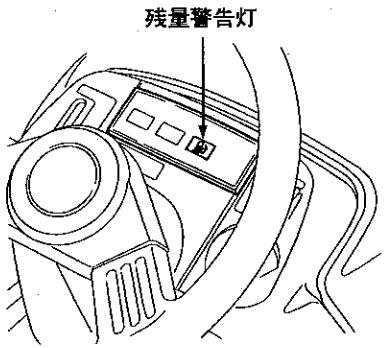
点　検

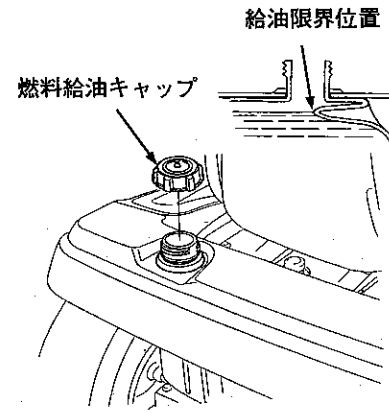
給油キャップを開けて給油限界位置までガソリンがあるか点検します。少ない場合は補給してください。

残量警告灯

燃料タンクの残量が下記容量以下になると点灯します。点灯した場合は早めに燃料を補給してください。

残　量：約1.0 ℓ





補　給

給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給してください。

使用ガソリン：自動車用無鉛ガソリン(レギュラ　ガソリン)

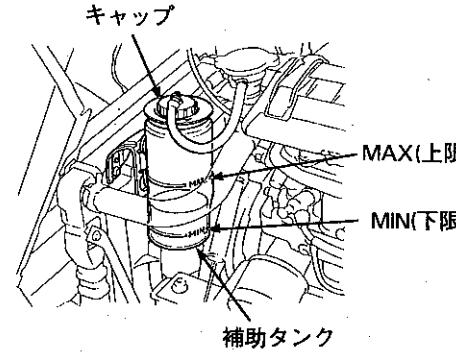
タンク容量：9.0 ℓ

補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

ラジエータ(冷却水)の点検

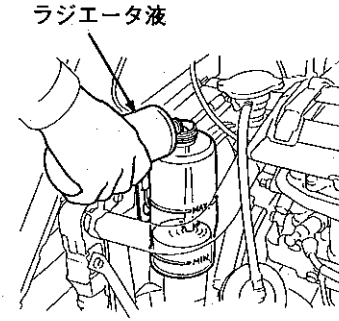
点　検

ラジエータ、ラジエータ　ホースなどからの液漏れ、液量、ラジエータ　キャップが確実に締っているか点検してください。



補　給

- 補助タンクのキャップをはずし、"MAX"(上限)まで補給します。
  指定液の濃度を30%(寒冷地50%)にしてご使用ください。
  液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますが、エンジン温度に関係なく"MAX"(上限)まで補給します。
- **指定ラジエータ液：**
  Honda純正ウルトラ　ラジエータ液



注意

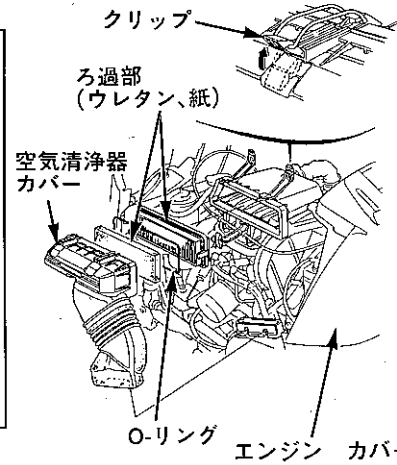
- **ラジエータ原液を規定濃度に薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。**
- **指定以外のラジエータ液や不適当な水を使用すると、錆などの原因となります。**
- **ラジエータ液交換時、水温が高いときラジエータ本体のキャップを外すと、冷却水には圧力がかかっていますので蒸気や熱湯がふき出し危険です。水温が下がってから、布切れなどでキャップを包み、静かに開けてください。**

空気清浄器(エア　クリーナ)の点検

1. クリップを外し、空気清浄器カバーを取外します。
2. ろ過部(ウレタン、紙)の汚れを点検します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過器の清掃を行ってください。(清掃方法は44頁参照)

注意

- 空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け状態が悪いとエンジンに悪影響を与える原因になります。

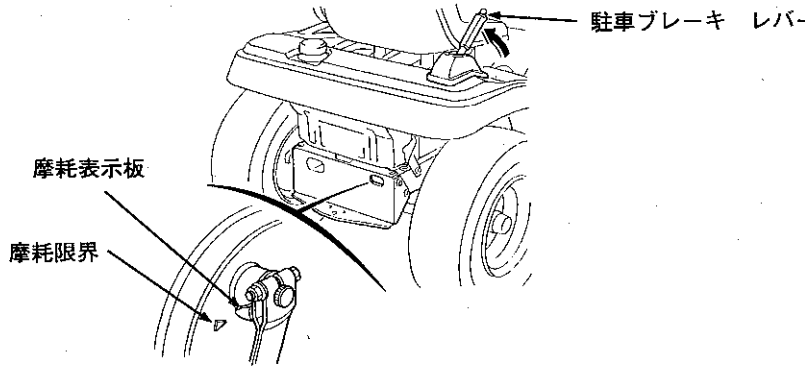


ブレーキ　ライニングの点検

ブレーキ　ライニングの状態を摩耗表示板で確認してください。
駐車ブレーキをかけて、ブレーキ摩耗表示板の位置を点検します。摩耗表示板が摩耗限界に近い時には、お買いあげ販売店へお申しつけください。

注意

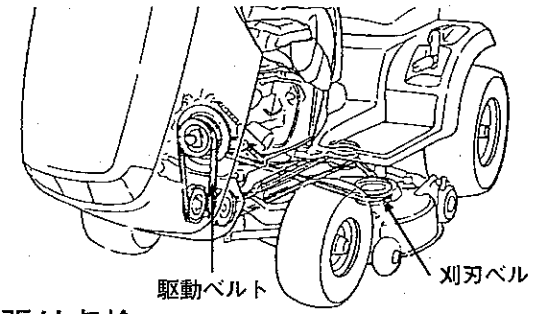
- ブレーキ摩耗表示板が摩耗限界に達している時には、芝刈機を使用しないでください。



刈刃ベルト及び駆動ベルトの点検

摩耗、損傷の点検

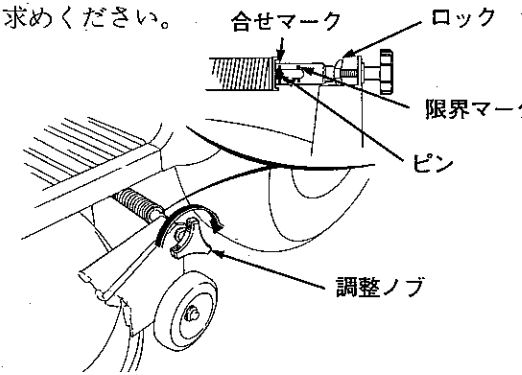
1. 刈取りクラッチ　レバーを"切"にしてください。
2. 刈取り高さ調整レバーで刈刃カバーをいちばん下の位置にしてください。
3. 刈刃ベルト及び駆動ベルトの摩耗、損傷を点検してください。もしベルトが摩耗、損傷していたら50～52頁の交換要領に従ってベルトを交換してください。



駆動ベルトの張り点検

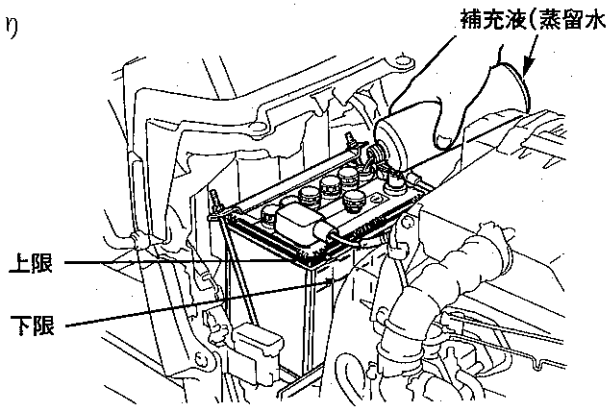
1. 刈取り高さ調整レバーで刈刃カバーをいちばん下の位置にしてください。
2. ピンの位置を確認してください。合せマークと限界マークの間にあれば調整する必要はありません。
3. ピンが限界マークに近づいたら調整が必要です。ロック　ナットをゆるめ調整ノブを回して、ピンを合せマークに合せてください。調整後ロック　ナットを確実に締付けてください。

●調整ノブを回してもピンが限界マークを超えない場合は、ベルトの交換が必要です。新品のベルトをお買い求めください。



バッテリ液の点検

バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER· LEVEL)と**下限**(LOWER· LEVEL)の間にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。



補　給

少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を**上限**(UPPER・LEVEL)まで補給します。

端子の手入れ

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。
端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

注意

- **バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐蝕させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。**
- **バッテリを取扱う時はショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。**
  万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

変速機オイルの点検

点　検

> 注意
>
> • 変速機オイルは温度による膨張や収縮の性質を持っております。点検を行う場合は、外気温度が 0 ℃～20℃の運転前に行ってください。

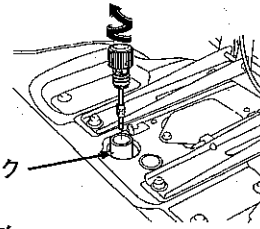
1. シートを持上げて、給油キャップ周囲のゴミ、汚れをきれいに取除いてください。
2. 給油キャップを右、左に回わしながら外し、レベル　ゲージで確認してください。上限と下限の間にあれば正常です。少ない場合は補給してください。

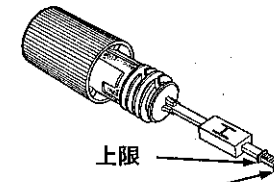
> 注意
>
> • 外気温度が高い場合や運転後では油温が上昇するためオイルが膨張しレベル　ゲージの上限を超える事がありますが異常ではありません。また、0 ℃以下の場合は油面が下がりレベル　ゲージで測定できない事があります。エンジン暖機後点検してください。

補　給

1. 少ない場合は新しい変速機オイルを上限まで補給します。
2. 補給後、確実にキャップを取付けます。

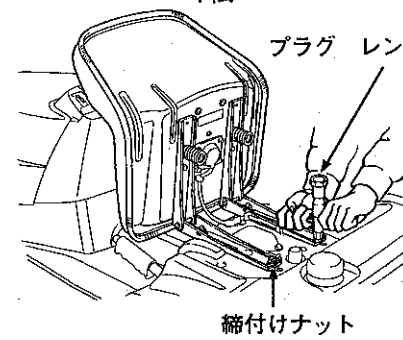
指定オイル：Honda純正　H—ＨＳＴオイル





シートの位置調整

1. シートを持上げて取付けナットをゆるめます。
2. 芝刈機の運転に適した位置にシートを動かします。
3. シートの取付けナットを確実に締付けます。



刈刃状態の点検

安全で効率のよい作業を行うために、刈刃に摩耗、割れ、曲がりなどがないか点検してください。

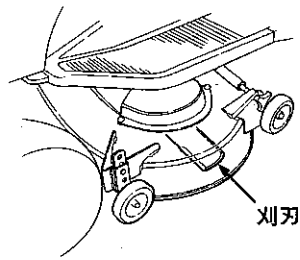
注意

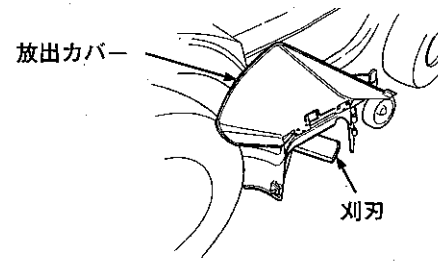
- **刈刃の摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、運転者や附近に居る人に当ったりすると重大な人身事故を招くおそれがあります。**
- **刈刃の点検を行う時は、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。**

1. エンジン　スイッチ　キーを外し、駐車ブレーキ　レバーが確実に引かれていることを確認してください。
2. 刈取りクラッチ　レバーを**"切"**の位置にし、刈取り高さ調整レバーを最上段の位置にします。
3. 放出カバーを持ち上げて、目視で刈刃の状態を点検します。
   刈刃を半周回して、反対側を点検します。

注意

- **42インチタイプは、中央の刈刃も必ず点検してください。刈刃に異常が認められた場合は、新品をお買い求めになり交換してください。**





	摩　耗	割　れ	曲　り
38インチタイプ			
42インチタイプ			

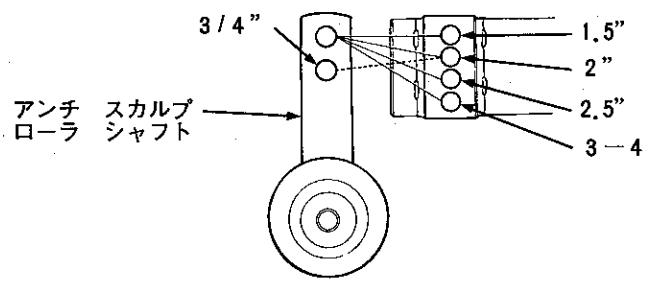
アンチ　スカルプ　ローラ調整

アンチ　スカルプ　ローラは、刈刃が地面に当たらないよう保護するため刈刃カバーに取付けられています。刈取る地形や刈高さに応じてその都度調整してください。

平担地では

アンチ　スカルプ　ローラ　シャフト上側の穴(３／４インチでは下側の穴)を使用してください。刈取り高さ調整レバーで合せた位置に該当する穴に調整します。

平担地

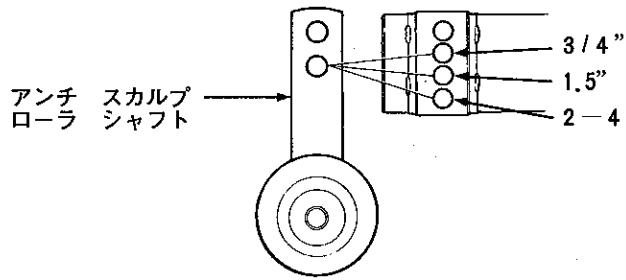


傾斜地または凹凸がある場合

アンチ　スカルプ　ローラ　シャフト下側の穴を使用してください。刈取り高さ調整レバーで合せた位置に該当する穴に調整します。

注意　• 指定された穴以外は使用しないでください。

傾斜地または凹凸がある場合



刈取りクラッチ　レバー、変速レバー　スイッチの点検

注意

- 点検する前に、必ず点火プラグ　キャップを点火プラグから外してください。

●刈取りクラッチ　レバー　スイッチの点検

1. シートにすわり、駐車ブレーキ　レバーを**"駐車"**の位置にしてください。
2. 変速レバーを**"N"**(中立)にして、刈取りクラッチ　レバーを**"入"**にします。
3. エンジン　スイッチを**"始動"**にして、スタータが回らない事を確認します。
4. エンジン　スイッチを**"停止"**にして、刈取りクラッチ　レバーを**"切"**にします。

●変速レバー　スイッチの点検

1. シートにすわり、駐車ブレーキ　レバーを**"駐車"**の位置にしてください。
2. 刈取りクラッチ　レバー**"切"**の状態で、変速レバーを前方へ(**"N"**ー中立以外)少し移動します。(この時警報ブザーが鳴ります。)
3. エンジン　スイッチを**"始動"**にして、スタータが回らない事を確認します。
4. エンジン　スイッチを**"停止"**にして、変速レバーを**"N"**(中立)にします。

スイッチの点検で異常があった場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

タイヤ空気圧の点検

圧力計でタイヤの空気圧を点検してください。

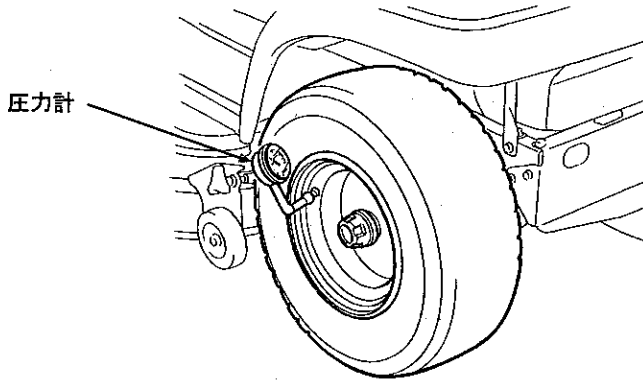
空気圧：前輪…98kPa(1.0kgf/cm²)

：後輪…78kPa(0.8kgf/cm²)

空気圧が高すぎたり、低すぎたりしている場合は、規定の空気圧にしてください。

注意

- **タイヤの空気圧が不適正であると、タイヤの寿命が短くなります。芝を正しく刈るためにも指定された空気圧を守ってください。**



運　転　の　し　か　た

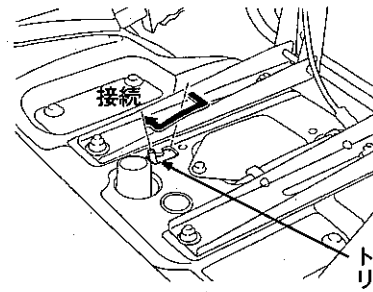
エンジンのかけかた

注意

- **排気ガスの中には有毒な一酸化炭素が含まれています。密閉された場所でエンジンをかけないで必ず換気のよい所で行ってください。**

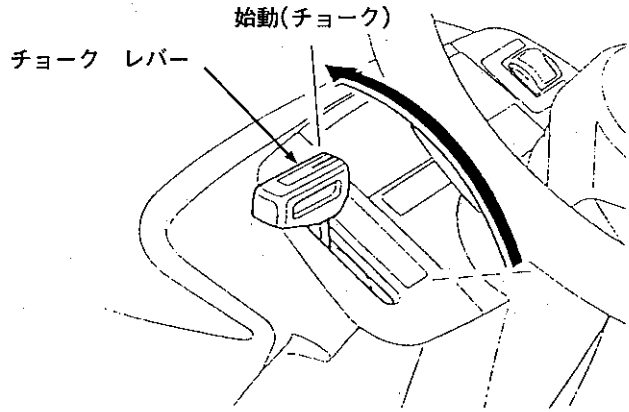
芝刈機を操作する前に操作方法を良く読んでください。

1. トランス　ミッション　リリース　レバーが**"接続"**(後側)にセットされている事を確認してください。



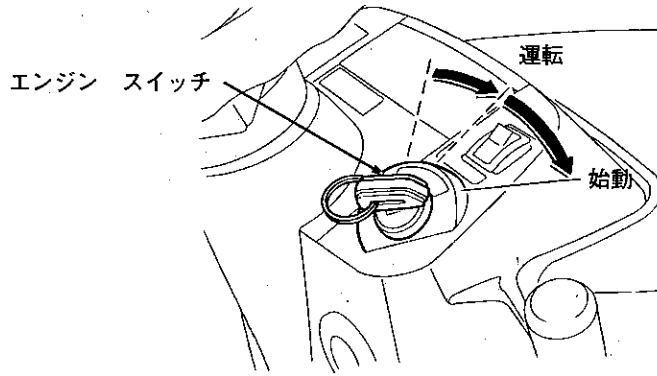
2. シートにすわり駐車ブレーキが**"駐車"**変速レバーが**"N"**(中立)、刈取りクラッチレバーが**"切"**になっていることを確認してください。
3. エンジン回転調整レバーを**"始動"**(チョーク)の位置にしてください。

● エンジンが暖まっている時、または気温が高い時には、エンジン回転調整レバーを**"低"**の位置にしてください。

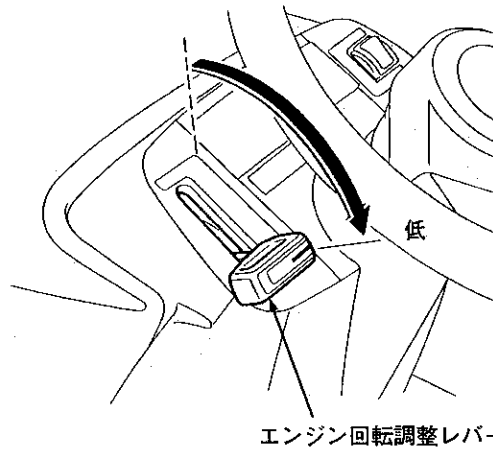


4. エンジン　スイッチを**"始動"**の位置まで回し、スタータをまわします。
5. エンジンが始動したらスイッチから手を離し**"運転"**の位置に戻します。

●スタータを回して、5秒以内でエンジンがかからないときは、10秒くらい休んでから再び回してください。



6. エンジンの回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを徐々に戻して、**"低"**の位置にしてください。

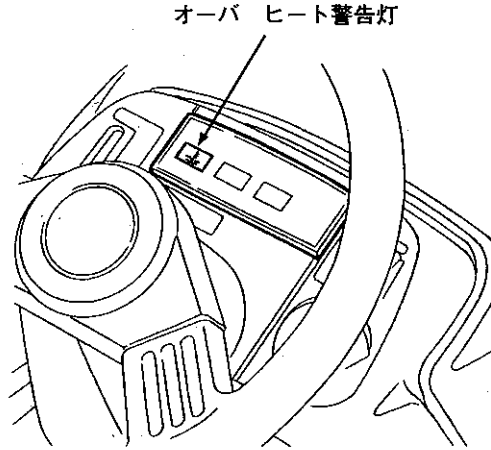


● **オーバ　ヒート警告灯(ブザー)**

芝刈機を使用中にもし、オーバ　ヒート警告灯とブザーが鳴り出したら、すぐにエンジンを停止にして、キーを外して、ラジエータ　スクリーンを清掃して下さい。(16頁参照)

注意

・ラジエータ スクリーンを清掃する時は、必ずエンジン　スイッチ キーを外してから行ってください。ラジエータは熱くなっていますので十分注意してください。



シート　スイッチの点検

注意
- **この点検は斜面ではなく平坦な場所で行ってください。**
- **点検時は、刈刃カバーを最上段の位置にして、刈刃カバー付近には異物がないことを確認してください。**

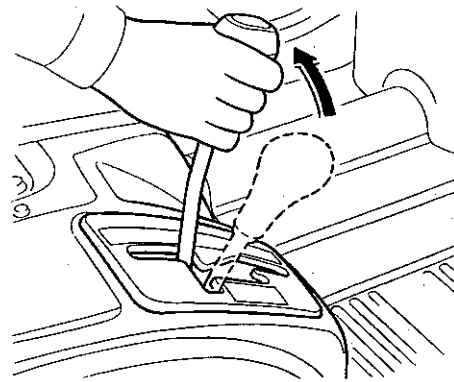
この装置は作業中シートから体が離れると自動的にエンジンが止まるようになっています。

1. エンジンを始動し、エンジン回転調整レバーを**"高"**にしてください。
2. 刈取りクラッチ　レバーを**"入"**に入れ、シートから腰を上げてください。
- エンジンが停止することを確認してください。
3. 刈取りクラッチ　レバーを**"切"**にして、エンジン　スイッチを**"停止"**にしてください。
4. エンジンを始動して、変速レバーを**"芝刈り"**に入れゆっくり走りながら腰を上げてください。
- エンジンが停止することを確認してください。

駐車ブレーキ　システムの点検

1. 駐車ブレーキを**"駐車"**にし、エンジンを始動してください。
2. 変速レバーを"N"(中立)の位置(右)から左のプレートに当たるまで移動してください。この時点で、警報ブザーが鳴り続け、数秒後にエンジンが停止する事を確認してください。
3. 変速レバーを元の位置に戻し、エンジン　スイッチを**"停止"**にしてください。

スイッチの点検で異常があった場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。



刈取り作業

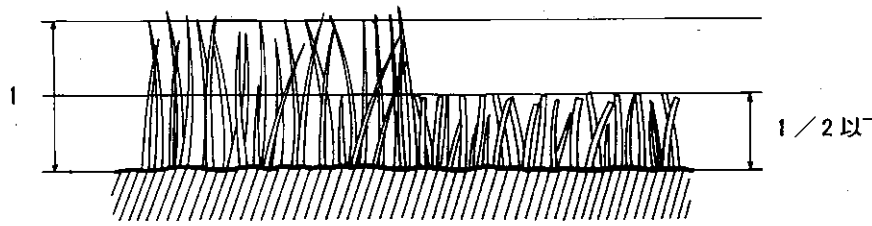
注意

- 安全にお使いいただくために、これだけはぜひ守りましょう(4～7頁参照)を良く読んで覚えたうえで、この芝刈機をご使用ください。
- 芝刈作業中に刈刃が(刈刃カバー内から異音、急激なエンジン回転低下またはエンジン停止)した場合、すみやかにエンジン　スイッチを"停止"にして、キーを抜き、各作動部が停止している事を確認後刈刃カバー内を点検し、芝等が詰っていたら取り除いてください。

- 芝がぬれている時、又は雨天の場合など芝刈機がスリップしたり、芝が刈刃カバー等につまったりする場合がありますので、乾いてから刈取ってください。
- 放出カバーは絶対に取外さないでください。

刈取り高さ設定の目安

- エンジンの回転が低下しないように作業する事が上手に刈る方法です。
- 刈取る前の芝高さの約1/2以上を残して刈取ります。状況により刈取り量をさらに少なくする必要があります。
- 刈取り高さを最上段にしても刈取る前の芝高さが約1/2まで刈取りできない場合は、刈り跡が全体に揃うまで同じ高さで刈ってください。刈りたい高さにするまで数回に分けて刈る事が良い方法です。

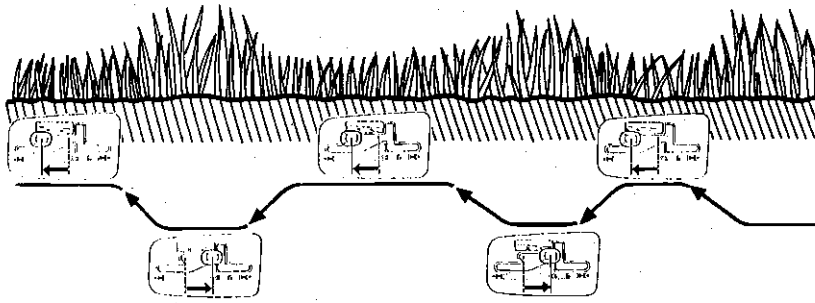


条件が厳しい場所での刈取り方法

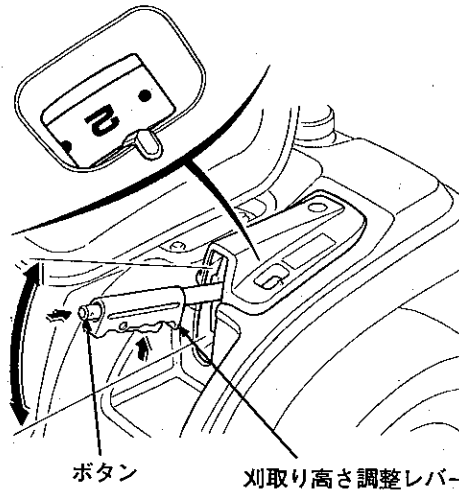
- 芝の密度が大変高かったり、低刈り等の場合は刈取り幅を狭くすると楽に作業できます。条件に合せて刈取り幅を調節するようにしてください。
- 変速レバーを"N"(中立)の位置から少し前方へ動かし、徐々に任意(エンジン回転が低下しない程度)の速度に変速してください。エンジン回転が低下しないよういつも速度調整をしてください。最低速でもエンジン回転が低下する場合はさらに刈取り幅を狭くしてください。

車速の選び方

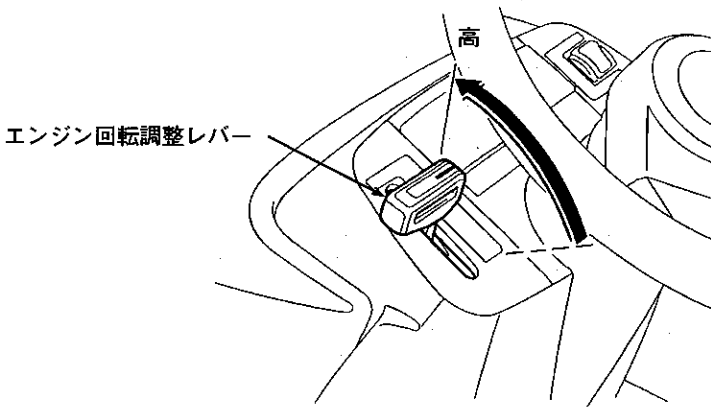
- 芝刈作業の能率は、刈取る草丈、刈取り幅、車速で決まります。ムリをするとエンジン回転が下がり、刈取り性能も低下してしまいます。刈取り高さと同様エンジン回転を一定に保って作業する事が上手な芝刈り作業の方法です。
- 車速はエンジン回転調整レバーで調整しないで、必ず変速レバーで行ってください。
- 発進しながら刈取る場合は、最低速でスタートし徐々に任意(エンジン回転が低下しない程度)の速度にしてください。
- 下図のように芝条件に合せて速度を変えると、エンジン回転の低下を少くすることができます。芝刈機の操作に慣れるまでは、低速で作業する方がきれいに刈取れます。



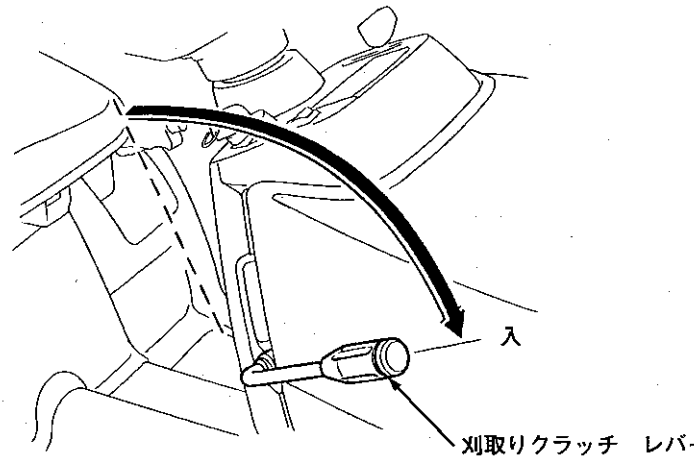
1. 刈取り高さを合わせてください。(11頁参照)



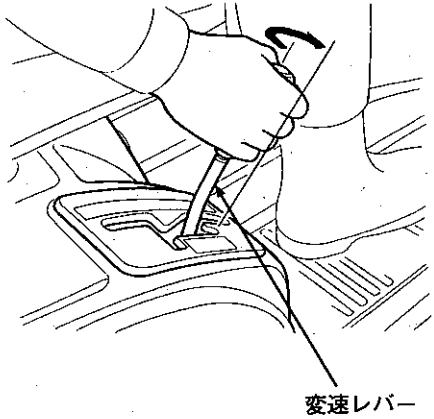
2. エンジン回転調整レバーを"高"の位置にしてください。

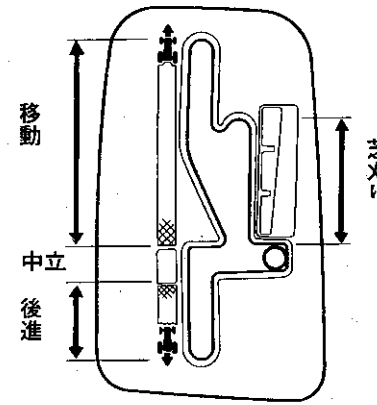


3. 刈取りクラッチ　レバーを“入”の位置にしてください。



4. 駐車ブレーキを解除し、変速レバーを“N”(中立)の位置から少し前方へ動かし希望の車速にします。



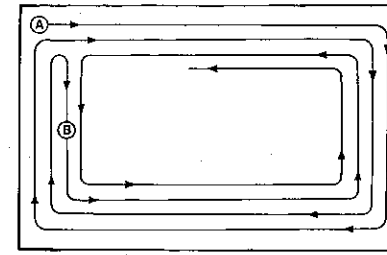


5. 刈取りパターン

次のような刈り方をお勧めします。

5-1. 狭い場所での芝刈り作業

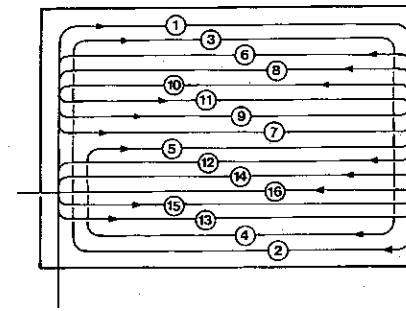
●Ⓐの様に右回りに２～３回芝刈りします。
次にⒷの様に左回りに芝刈りします。



5-2. 広い場所での芝刈り作業

①～④の様に最初右回りに２～３回芝刈りします。

●次に中心程から上面半分を左回りに芝刈りします。
下面半分も上面半分と同様左回りに芝刈りします。

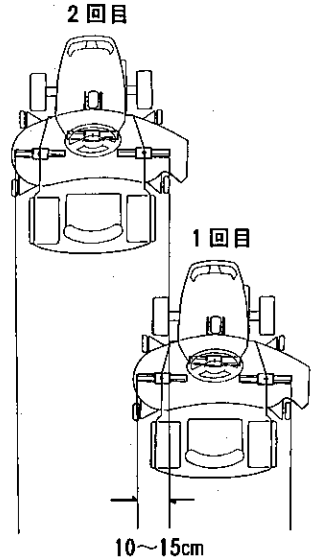


注意

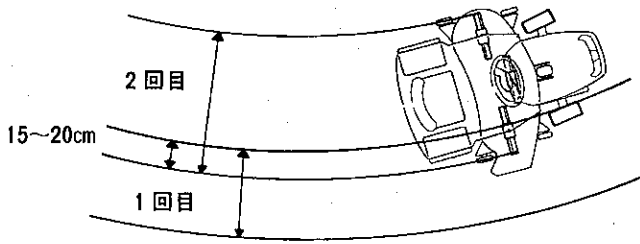
- 約70mm以上の段差乗り越しは、必ず歩み板を使用してください。高速での段差乗り越しは、転倒事故や芝刈機故障の原因になります。
- フロント　タイヤ(前輪)が穴や溝に落ち込んだ時は、ハンドルをむやみに回さず、必ずエンジンを停止したうえで芝刈機を持ち上げて脱出してください。
  むやみなハンドル操作は、芝刈機の故障の原因になります。
- 走行中、作業中の切り株、縁石、スプリンクラー等への前輪衝突は、芝刈機の故障の原因となります。十分注意してください。
- これらの刈取り方法は地面が平坦な場所での刈取りに使用ください。4～7頁の「安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう」を参照してください。

刈り幅について

● 直進作業の時は、刈った部分と新しく刈る部分を約10～15cm重複（前輪タイヤ幅）させて芝刈りを行う事を推奨します。

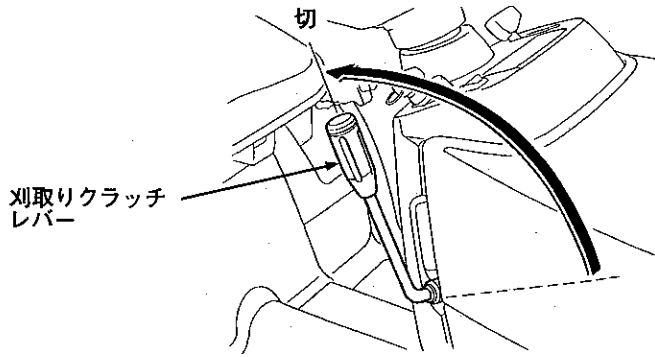


● 旋回作業の時は、刈った部分と新しく刈る部分を約15～20cm重複（後輪タイヤ幅）させて芝刈りを行う事を推奨します。

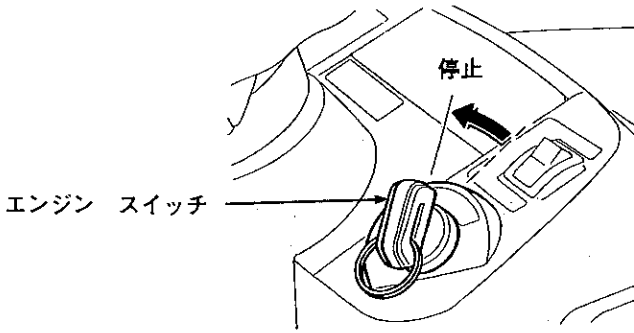


エンジンのとめかた

1. 刈取りクラッチ　レバーを**"切"**にしてください。
2. 変速レバーを**"N"**(中立)に入れてください。
3. 駐車ブレーキをかけてください。



4. エンジン　スイッチを**"停止"**にしてください。



注意

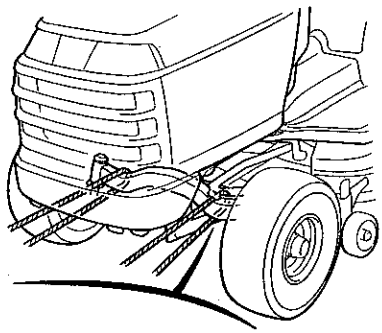
- **緊急の場合はエンジン　スイッチを"停止"してください。**
- **芝刈機から離れる時には、必ずエンジンを止め、エンジン　スイッチ　キーを外してください。**

運　搬　の　し　か　た

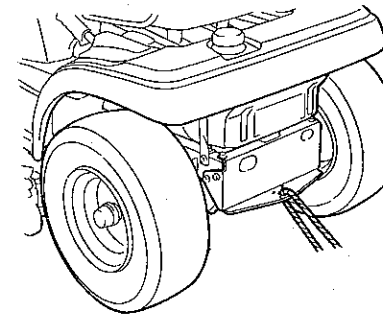
運　搬

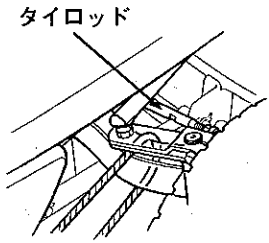
芝刈機を車輌で運搬する時は駐車ブレーキをかけて、下図に示された所で芝刈機をしっかりと縛りつけてください。(下図指定以外にはロープがけをしないでください。)

前　部



後　部





注意

- 車両の前部を固定する時は、必ず上の図に従ってロープをかけてください。
- タイロッドにロープをかけると、変形や破損が生じるおそれがあります。
- 燃料がこぼれないように、運搬中は必ず芝刈機を水平に保ってください。
- 芝刈機ではけん引作業を行わないでください。また他の車両で芝刈機をけん引しないでください。

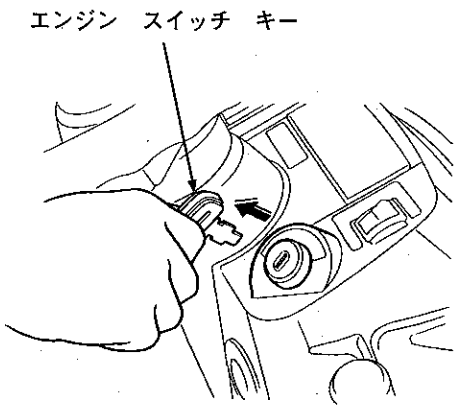
定期手入れを行いましょう

注意

- 手入れをする時には、その前に、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンが偶然かかることのないように、エンジン　スイッチのキーを外し、点火プラグのキャップを外してください。

●手入れや修理には必ずHonda純正部品を使用してください。
純正部品以外の(類似品の)交換部品を使用すると、芝刈機が損傷することがあります。

芝刈機の高い性能を維持するためには、定期的な点検整備が不可欠です。長持ちさせるためにも、定期的な手入れが必要です。点検時期と点検整備項目が次頁の表に示してあります。



点検・整備は平坦な場所で芝刈機を水平にし、エンジンをとめて行ってください。

- 適当な工具と整備技術をお持ちの方が実施出来ます。
- 排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検は、やめてください。

定期点検

点検項目＼点検時間＊		作業前 点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間運転毎 又は3年に1回	500時間運転毎 又は5年に1回
エンジン　オイル	点検	○					
	交換		○		○		
空気清浄器	点検	○					
（エア　クリーナ）	清掃			○〈注1〉			
ラジエータ　スクリーン	清掃	○					
駐車ブレーキ表示灯及び警報ブザーの作動	点検	○		○〈注2〉			
インターロックシステム	点検	○					
バッテリ	液量の点検	○					
	液量及び比重の点検			○〈注2〉			
タイヤ空気圧	点検	○					
刈刃駆動ベルト及び刈刃ベルト	点検	○					
収納袋（別売り部品）	清掃	○					
ブレーキの摩耗表示板	点検	○					
フットブレーキの遊び	点検		○	○			
駐車ブレーキ	点検		○	○			
ラジエータ液	点検	○					
	交換	2年毎　〈注2〉					
ラジエータコア	清掃				○〈注1〉		
刈刃ボルトの締付	点検		○〈注3〉	○〈注3〉			
刈刃状態	点検	○					
変速レバー	点検・調整		○〈注2〉	○〈注2〉			
ブレーキ及びPTOクラッチのボルト、ナット締付	点検		○〈注2〉		○〈注2〉		
点火プラグ	点検・清掃				○		
変速機オイル量	点検	○					
	交換						○〈注2〉
燃料ろ過器	点検				○〈注2〉		
刈取りクラッチ　ワイヤ	点検・調整		○〈注2〉		○〈注2〉		
刈取りクラッチ機能	点検				○〈注2〉		
エンジン回転調整ワイヤ	点検・調整				○〈注2〉		
前車軸グリース注入		100時間毎又は1年毎　〈注2〉					
吸入・排気弁すき間	点検・調整					○〈注2〉	
燃料タンク	清掃					○〈注2〉	
潤滑油ろ過器（オイル　フィルタ）	交換	300時間毎又は2年毎　〈注2〉					
燃料チューブ	点検	2年毎　〈注2〉					
	交換	4年毎　〈注2〉					

※点検時間は、作業の累積時間です。

〈注1〉ホコリの多いところで使用した場合、空気清浄器の清掃は、10時間毎又は1日1回行ってください。

〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

〈注3〉この項目は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施する項目です。（54～56頁参照）。

やさしい点検・整備

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回20時間目、以後：100時間運転毎

《推奨オイル》

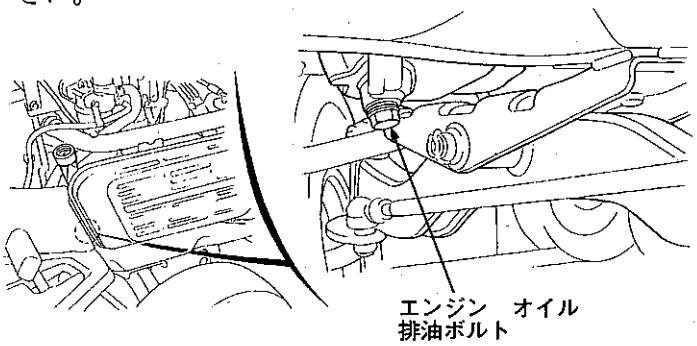
Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

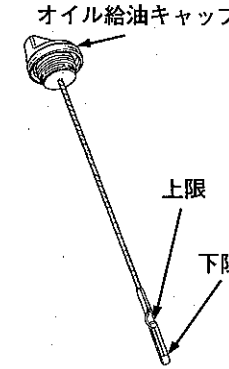
《規定量》　1.1 ℓ

注意

- **寒冷時では、Honda純正汎用寒冷地オイルSE5W—30またはAPI分類SE、SF級相当のSAE5W—30のオイルをご使用ください。**
- **エンジン停止直後はオイルの温度が高くなっています。火傷に十分注意してください。**

1. エンジン　カバーを開けてください。
2. オイル給油キャップ、排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。
   ●オイルを抜く時、刈刃駆動ベルトにオイルが付かないように注意してください。
3. 排油ボルトを締めて、給油口より新しいオイルを注入してください。給油キャップを差し込み上限までオイルが入ったのを確認して給油キャップを締めてください。





空気清浄器(エア　クリーナ)の清掃

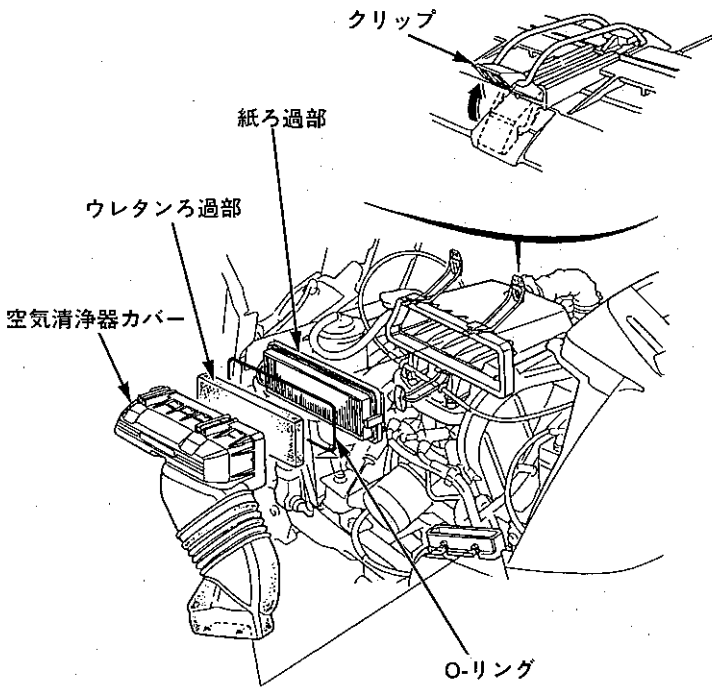
空気清浄器(エア　クリーナ)が目詰りすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

《清掃時期》

50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

1. エンジン　カバーを開けてください。
2. クリップを外し、空気清浄器カバーを取外します。
3. ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるか又はよく絞って乾かしてください。次にきれいなオイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。
4. 紙ろ過部は内側から圧縮空気を吹きかけるか、又は軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。



点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の隙間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

100時間運転毎

《清　掃》

1. エンジン　カバーを開け、プラグ　キャップを外しプラグ　レンチで点火プラグを外します。
2. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。
   お買いあげ販売店をご利用ください。

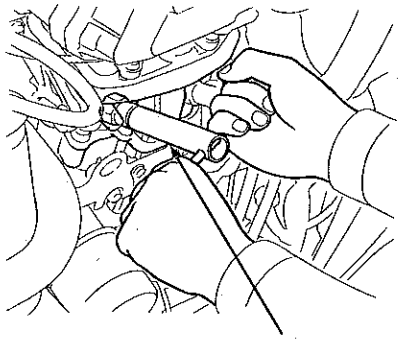
● プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落してください。

《調　整》

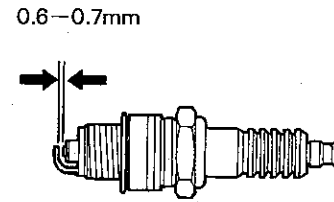
● 側方電極をつめ、火花すきまを下記寸法に調整してください。
   適正すき間：0.6—0.7 mm

《標準プラグ》

BPR4HS(NGK), W14FPR-UL(DENSO)



プラグ　レンチ



注意

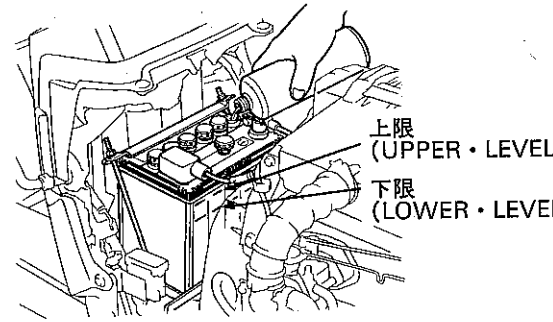
- 標準以外のプラグを使用しないでください。
- エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
- プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。

バッテリ液の補充・端子の手入れ

バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

《点検時期》 50時間運転毎

エンジン カバーを開けバッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。



《補 給》

少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を**上限**(UPPER・LEVEL)まで補給します。

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。

端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

注意

- **バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐蝕させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。**
- **バッテリを取扱う時はショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。**
  万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

車輪の取外し

注意

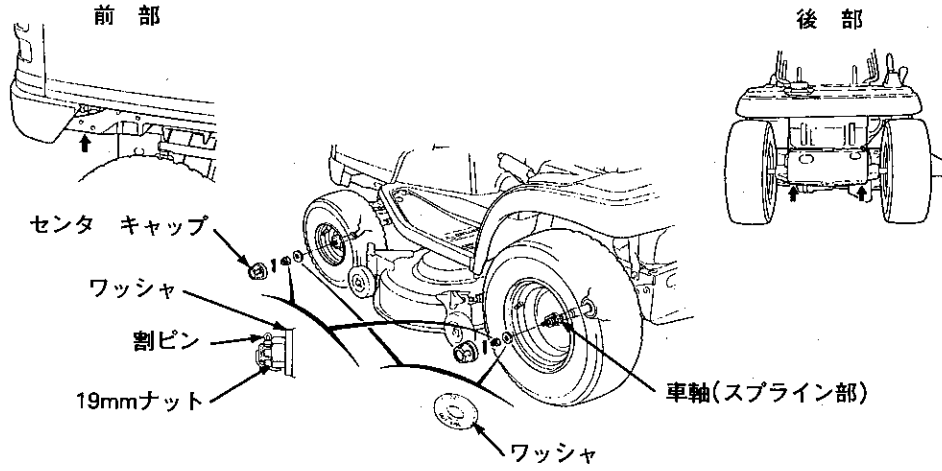
- 車輪を取外す時には、芝刈機を堅い平坦な場所に置いてから、行ってください。
- 駐車ブレーキ　レバーをいっぱいに引き、芝刈機を固定させてタイヤの前後に輪止めをしてください。

前　輪

1. センタ　キャップと割ピンを外し、19mmナットを少し(約1回転)ゆるめます。
2. ジャッキで芝刈機を持ち上げ19mmナットとワッシャを外し、前輪を取外します。
3. 取付けは、取外しの逆の手順で行い、割ピンは必ず新品と交換し、下図のように折りまげてください。

後　輪

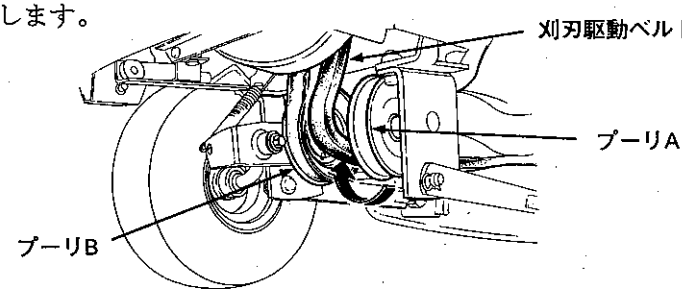
1. センタ　キャップ割ピンを外し、19mmナットを少し(約1回転)ゆるめます。
2. ジャッキで芝刈機を持ち上げ19mmナットとワッシャを外し、後輪を取外します。
3. 後輪を取付ける前に車軸(スプライン部)にうすくグリースを塗布してください。
4. 取付けは、取外しの逆の手順で行い、割ピンは必ず新品と交換し、下図のように折りまげてください。



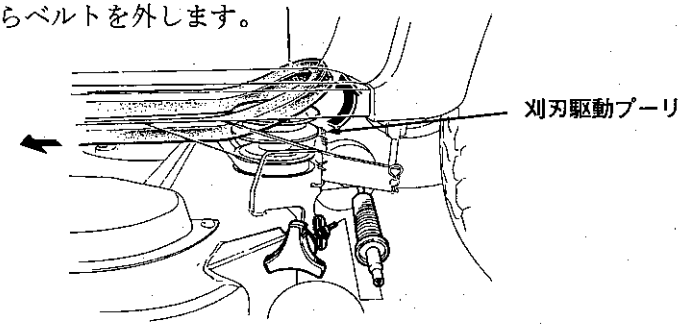
刈刃カバーの外しかた

> **注意**
> • 刈刃駆動ベルトを交換する時、または刈刃に関する作業を行う時には、必ず丈夫な手袋をしてください。

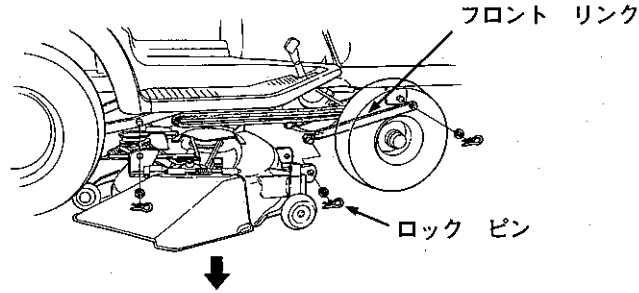
1. 刈刃カバーをいちばん下まで下げ、ベルト調整ノブをゆるめて調整ロッドから外します。
2. 芝刈機前側下のプーリBを持上げてプーリAからベルトを外し、次にプーリBからベルトを外します。



3. 刈刃駆動プーリからベルトを外します。



4. 黄色のロック　ピン6本(片側3本ずつ)を外して、刈刃カバーを外してください。

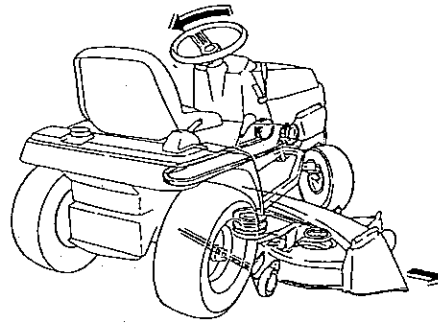


● 刈取り高さ調整レバーで刈刃カバーをいちばん上の位置にしてください。

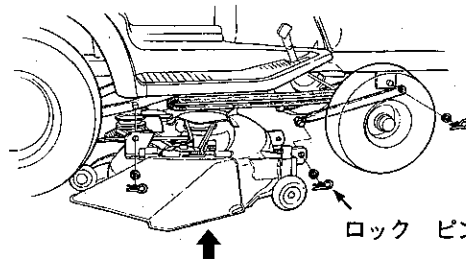
注意

• 刈刃カバーを取外した時には、刈取り高さ調整レバー　スプリングの急激な戻りを防止するために、刈取り高さ調整レバーを最上位の位置にセットしておいてください。

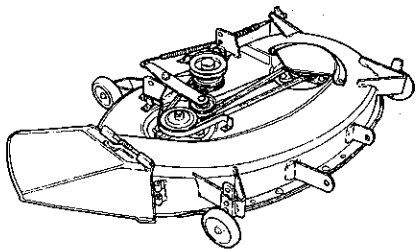
5. ハンドルを左側一杯に回し、刈刃カバーを進行方向右側へ引きだします。



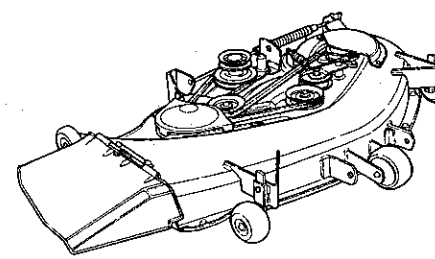
6. 取付けは、取外しの逆の方法で行ってください。
ベルトを取り付け調整後にエンジンを始動して、刈刃クラッチ　レバーを**"入"**
"切"にして正常に作動する事を確認してください。



38インチ タイプ



42インチ タイプ

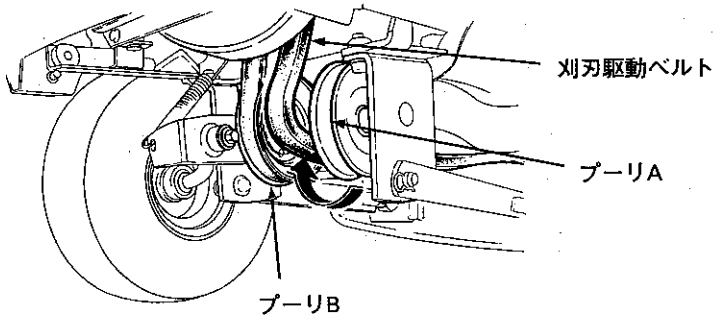


刈刃駆動ベルトの交換

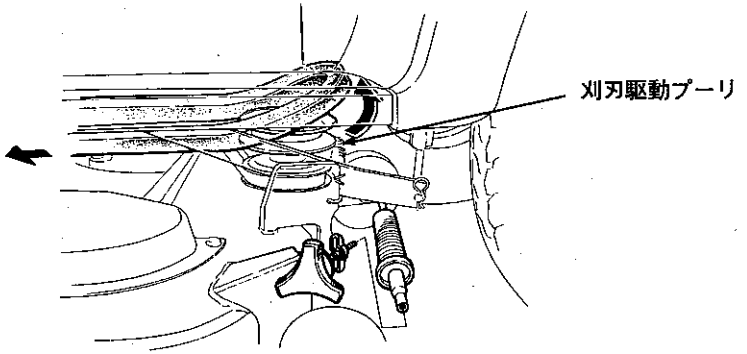
注意

- エンジンがかかっている時には絶対にベルトを交換しないでください。ベルトを交換する前に必ずエンジン　スイッチ　キーを外して、点火プラグ　キャップを外してください。
- 刈刃駆動ベルトを交換する時、または刈刃に関する作業を行う時には、必ず丈夫な手袋をしてください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体またはラジエータの温度が高いので、やけどをしないように注意してください。

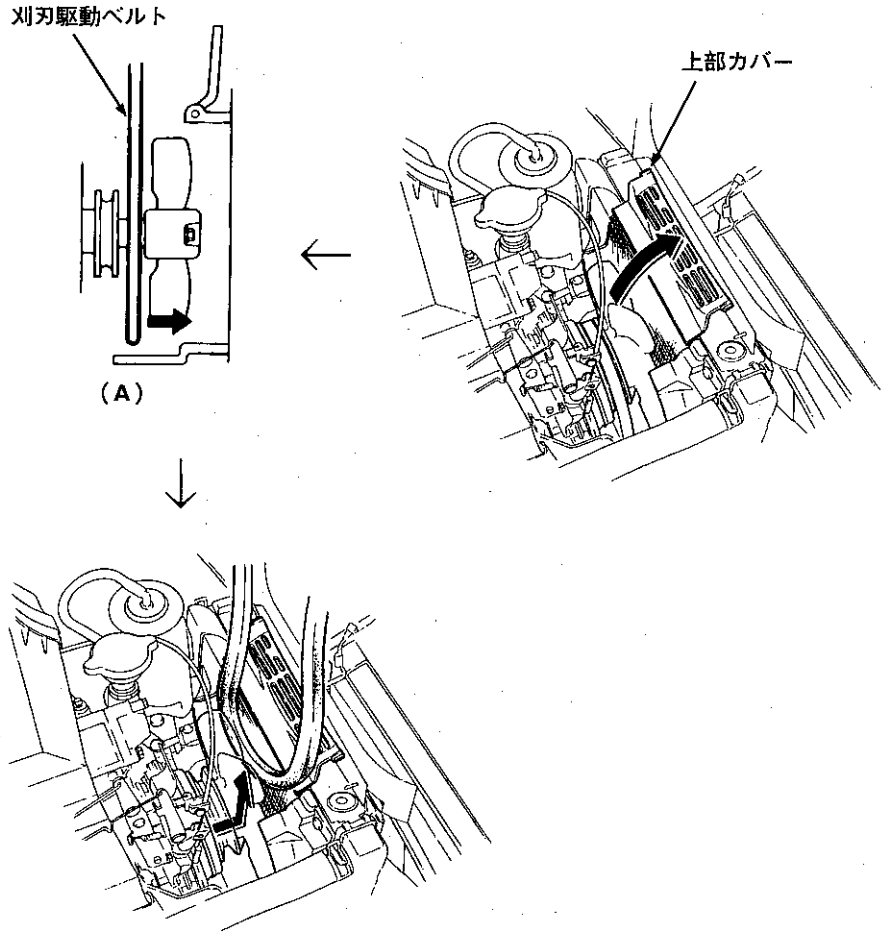
1. 刈刃カバーをいちばん下まで下げ、ベルト調整ノブをゆるめて調整ロッドから外します。
2. 芝刈機前側下のプーリBを持ち上げてプーリAからベルトを外し、次にプーリBからベルトを外します。



3. 刈刃駆動プーリからベルトを外します。



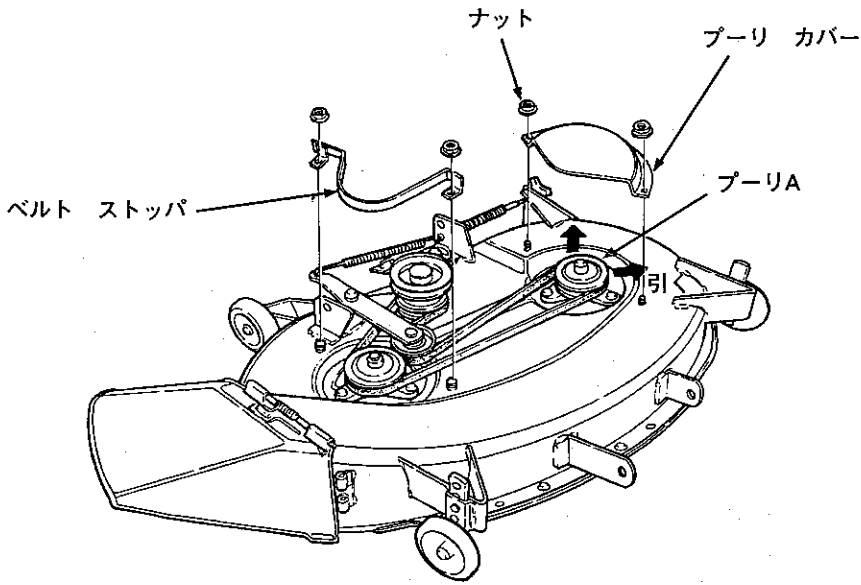
4. エンジン　カバーを開け、ラジエータ上部カバーを開けます。
5. ベルトを一度上に引き上げ、図(A)の様にラジエータ側へ移動して上に取出します。
6. 取付けは、取外しの逆の方法で行ってください。
   ベルトを取り付け調整後にエンジンを始動して、刈刃クラッチ　レバーを"入""切"にして正常に作動する事を確認してください。



刈刃ベルトの交換
(38インチ タイプ)

注意 • 手を傷付けないために、必ず丈夫な手袋をして作業してください。

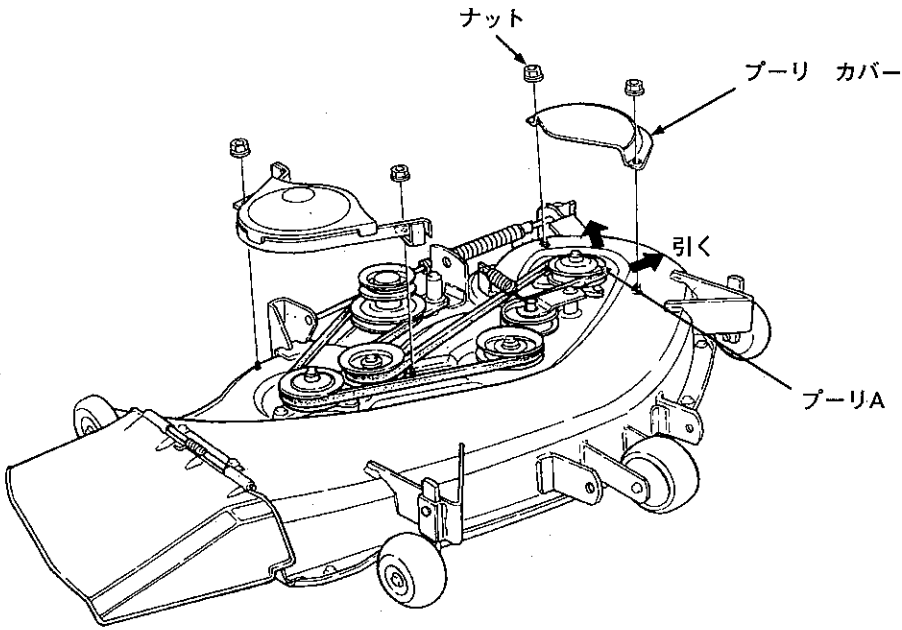
1. 刈刃カバーをいちばん下まで下げ、刈刃カバーを外してください。(47頁参照)
2. ナットを外して、ベルト　ストッパとプーリ　カバーを外します。
3. プーリAの両側のベルトを手前にいっぱい引いてください。そしてゆっくり戻しながらプーリAからベルトを外してください。
4. 残りのプーリからベルトを外して、新しいベルトと交換してください。



(42インチ タイプ)

注意 • 手を傷付けないために、必ず丈夫な手袋をして作業してください。

1. 刈刃カバーをいちばん下まで下げ、刈刃カバーを外してください。(47頁参照)
2. ナットを外して、プーリ　カバーを外します。
3. プーリAの両側のベルトを手前にいっぱい引いてください。そしてゆっくり戻しながらプーリAからベルトを外してください。
4. 残りのプーリからベルトを外して、新しいベルトと交換してください。



刈刃の交換

注意

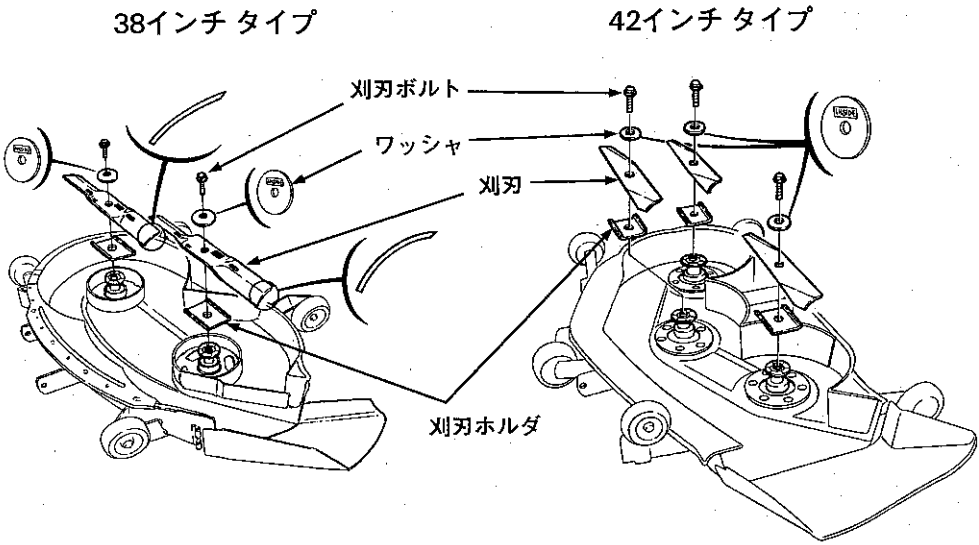
- 刈刃の取外し、取付け、修正、交換時の作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施してください。
- 刈刃を交換する場合は、Honda純正部品をご使用ください。
- 作業をするときは手をすべらさないように十分注意してください。

■刈刃の取外し

1. 刈刃カバーを外し(48頁参照)、裏返します。
2. 丈夫な皮手袋などをした手で、刈刃の先端をしっかりとささえ、レンチで刈刃ボルトをゆるめます。
3. 刈刃ボルトを外し、ワッシャ、刈刃、刈刃ホルダを取外します。

注意

- 刈刃ボルトは強いトルクで締め付けられています。ボルトがはずれない場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。



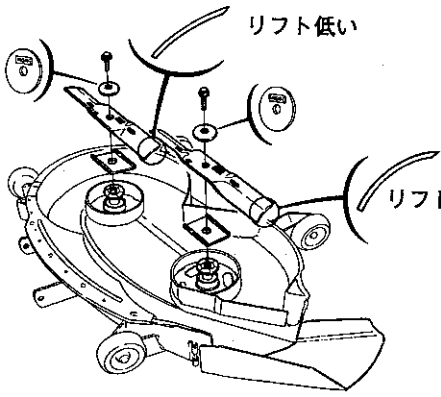
■刈刃の取付け

1. 刈刃を取付ける前に、刈刃カバーの内側、刈刃ホルダ等の芝、汚れをきれいに落とします。
2. 刈刃ホルダ、刈刃、ワッシャ、刈刃ボルトの順に取付けてください。
3. 刈刃ワッシャは、"INSIDE"の表示がある面を刈刃側にセットします。

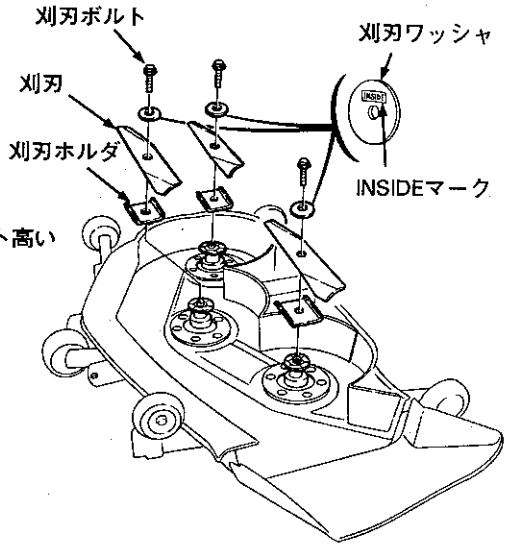
注意

- **38インチタイプは、右と左の刈刃が異なります。リフトの高い方が方出カバー側です。**
- **刈刃ボルトは専用ボルトです。他の種類のボルトを代用しないでください。**

38インチ タイプ



42インチ タイプ

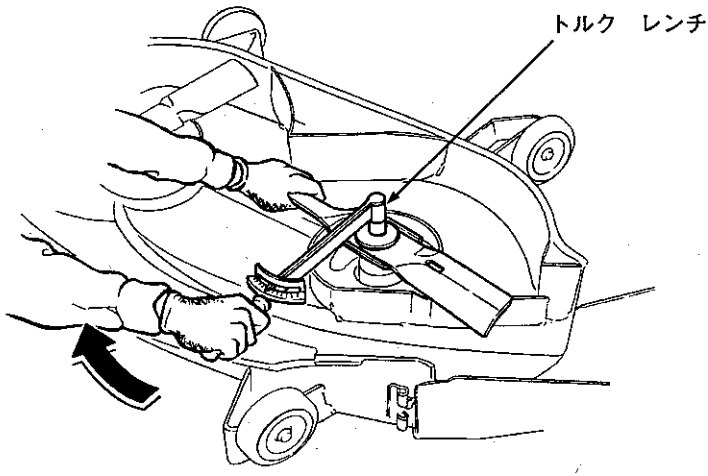


■刈刃の締付け、トルク確認

1. 丈夫な皮手袋などをした手で刈刃の先端をしっかりささえ、14mmボルトをトルク レンチを使用して締付けます。

   指定トルク：59N･m(6.0kgf･m)

● 刈刃を締付ける時は刈刃ホルダと平行に又刈刃ホルダの端に刈刃が乗り上げないように注意してください。



ヒューズの交換

注意

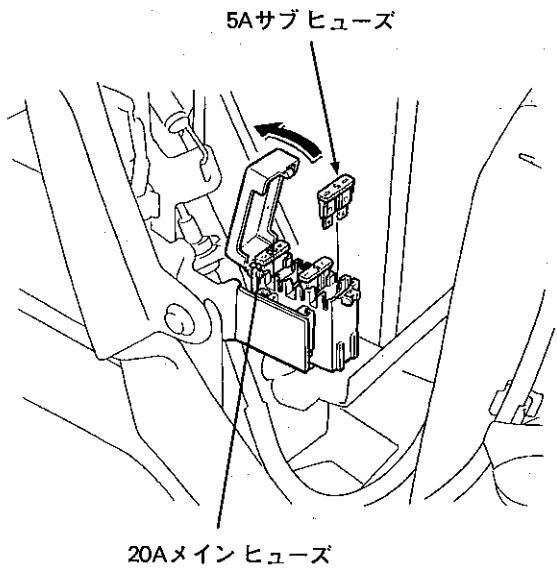
- ヒューズを交換する時は、エンジンを止めエンジン　スイッチキーを抜いて行ってください。

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。
そのまま交換しても、再び切れるおそれがあります。

注意

- 指定ヒューズ以外のものは、絶対に使用しないでください。

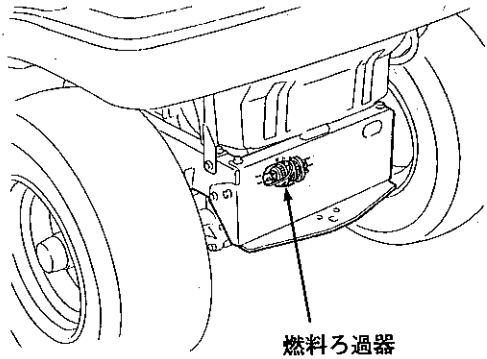
切れたヒューズを抜いて、新しいヒューズに交換します。
規定容量： 20A（メイン　ヒューズ）
5A（サブ　ヒューズ）



燃料ろ過器の点検

燃料タンクの下のクリップから燃料ろ過器を引き出して外し、連結板の穴から目視検査してください。

ほこりや水で汚れていたら、ろ過器を交換してください。

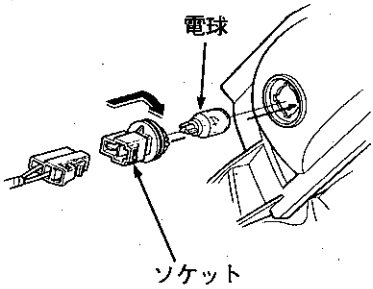


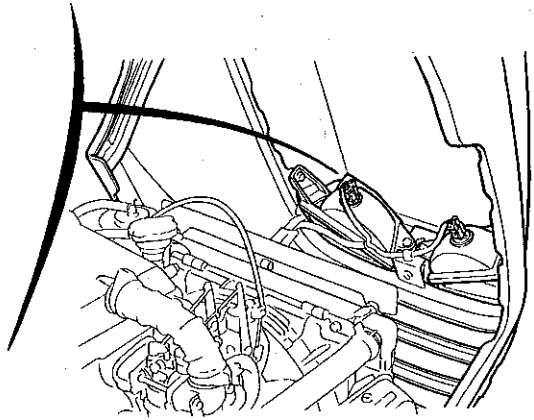
前照灯の電球交換

エンジン　カバーを開け、ソケットを左に回して外してください。

電球を取付ける時は、ソケットを外した位置から右に止まるまで回します。

標準電球：12V-18W（2個）





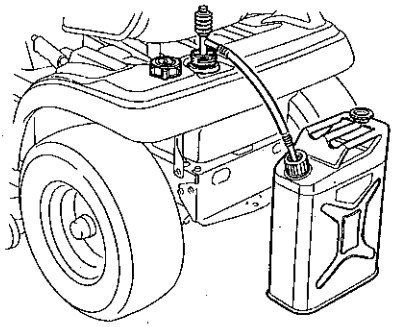
保　管　の　し　か　た

保管の準備

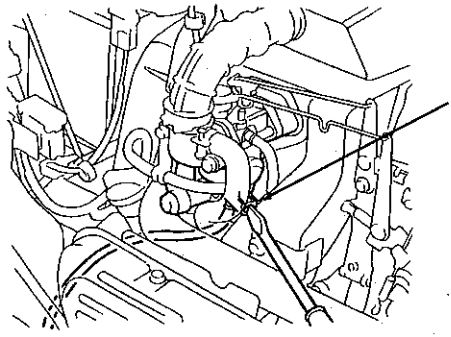
注意
- 芝刈機を保管する場合には、堅い平坦な場所で芝刈機を水平にしてください。

長期間運転しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
1. 燃料タンク内のガソリンを抜いてください。

注意
- 燃料を抜くときは火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行ってください。
- 燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンと排気装置が冷えてから行ってください。
- 抜いた燃料の取扱いは十分に注意してください。



2. 気化器(キャブレータ)内のガソリンを抜いてください。
燃料排油ボルト(ドレン　ボルト)を回して適当な容器にガソリンを抜いてください。



3. エンジン　オイルを交換してください。交換方法は42頁を参照してください。
4. バッテリを外して、涼しく乾燥した場所に保管してください。
   月に1回は充電してください。
5. 刈刃カバーを外してください。(47～48頁参照)
6. 刈刃カバーを逆にして、刈刃カバーの下側を水で洗ってよく乾かしてください。
7. 芝くずを完全に取り、刈刃カバーの塗装がはげている場合は、その部分の錆を取り除いて防錆塗料を塗布してください。
8. 刈刃カバーを取付けてください。(48頁参照)
9. 駐車ブレーキをかけて風通しの良い湿気の少ない所に芝刈機を水平に保管してください。

● 芝刈機にカバーをかけてほこりがつかないようにしてください。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れてください。

保管後使用する際

1. 点火プラグを外して、プラグが汚れていないか、スキマが適正かどうかを点検します。(44頁参照)。
   プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
2. エンジン　オイルを点検します。(17頁参照)。
3. 燃料タンクを規定レベルまで入れ、エンジンのかけかた(28頁参照)に従って　エンジンをかけます。

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備を実施することが芝刈機を長持ちさせる秘けつです。

1. エンジンがかからないときは、

- ガソリンはありますか?
- エンジンオイルは規定量入っていますか? (17頁参照)
- 変速レバーは"**N**"に入っていますか?
- 刈取りクラッチ　レバーは"**切**"になっていますか?
- 点火プラグの火花すきまは正しいですか?
- 駐車ブレーキが"**駐車**"になっていますか?

2. 刈取り出来ないときは、

- 変速レバーが"**入**"になっていますか?
- 刈取りクラッチ　レバーは"**入**"になっていますか?
- 刈刃駆動ベルト、刈刃ベルトが摩耗、切れていませんか? (21頁参照)

3. 走行しないときは、

- 変速レバーは入っていますか?
- 変速機オイルは入っていますか?

故障の修理
お買いあげの販売店へお申しつけください。

主　　要　　諸　　元

名　　称	H4514H
型　　式	MZAS

エンジン

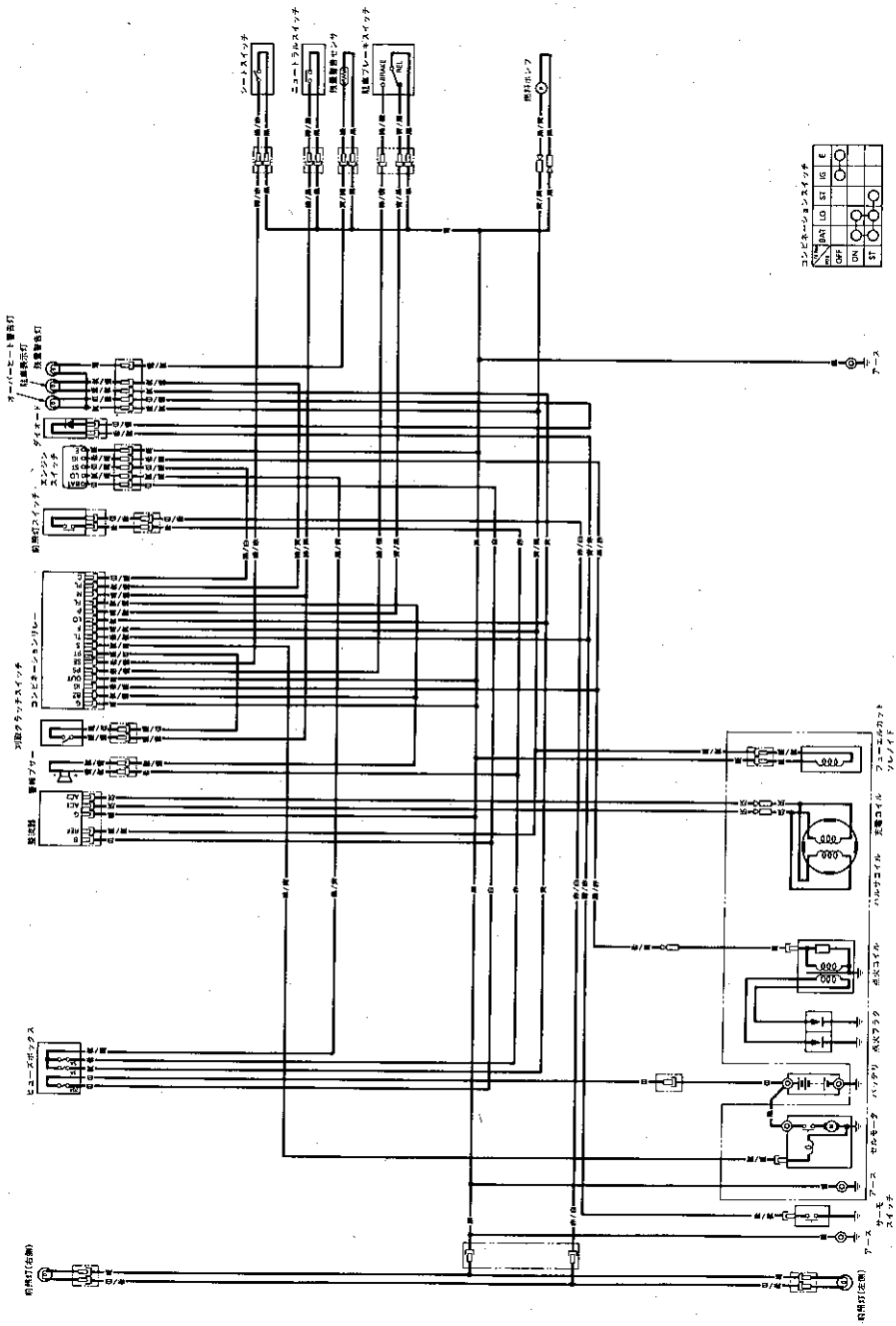
形　　式	水冷4サイクル頭上弁式
排　気　量	359 cm³
内径 x 行程	58 x 68 mm
点火時期	上死点前24°
点火方式	トランジスタ　マグネト
オイル容量	1.1 ℓ
点火プラグ	BPR4HS(NGK), W14FPR-UL(DENSO)

フレーム

タ　イ　プ	HSJ(38インチ)タイプ	HSJA(42インチ)タイプ
全　長	1,815 mm	1,815 mm
全　幅	1,270 mm	1,460 mm
全　高	1,050 mm	1,050 mm
刈　幅	965 mm	1,060 mm
刈高さ	約 20—94 mm (7段階)	
乾燥重量	258 kg	270 kg
軸　距	1,190 mm	
輪　距	前輪　730 mm	後輪　750 mm
タイヤサイズ	前輪　15 x 6.00—6	後輪　20.5 x 8.50—10
空　気　圧	前輪　98kPa(1.0kgf/cm²)	後輪　78kPa(0.8kgf/cm²)
変　速　数	油圧式無段変速方式	
走行速度(3,300回転時)		
最高速度	7.6 km/h	
芝刈速度	5.1 km/h	
後進速度	3.4 km/h	
変速機オイル容量	5.0 ℓ	
ガソリンタンク容量	9.0 ℓ	
バッテリ	標準12V30AH	
収納袋容量	220 ℓ / 2袋(別売部品)	

注意　諸元は改良のため予告なく変更することがあります、ご了承下さい。

配　線　図


シートスイッチ
コントロールスイッチ
燃料ポンプ
コンビネーションスイッチ
ACC
BAT
LO
ST
IG
E
OFF
ON
ST
ヒューズボックス
ACクラッチ
バッテリ
セルモータ
アース
スイッチ

メ　　モ

メ　　モ